

仙台市文化財調査報告書第83集

年 報 6

昭 和 59 年 度

昭 和 60 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市文化財調査報告書第83集

年 報 6

昭 和 59 年 度

昭 和 60 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

ごあいさつ

近年、社会情勢のながれのひとつに生涯学習社会の形成と、その条件整備があげられます。こうした背景には高齢化社会の到来、余暇時間の増大、情報の滲透という大きな社会変動のあらわれにすぎませんが、一方では地域社会の見直しもまた新しい地域社会創造に向けて進行つつあります。

ここに50年代から60年代へ移行する中で展開されているこうした動きは、改めて地域社会がもってきたすべての事象について直視し分析することからはじまり、それを基本として人間復興へ向けての地域づくりが今こそ囑望されているともいえましょう。先人の証ともいえる文化財資源は、こうしたなかでこそ、地域社会のアメニティ要素として、また生涯学習資源として重要な意味をもっているものと考えられます。教育委員会は文化財行政の根幹であるこうした資源の保護保存、継承、活用に向けて積極的に取り組んでまいり所存であります。

ここに刊行する年報は、今年度の事業内容について集成したものであります。

これをもって本市の文化財保護行政の一端をご理解いただければ幸勤の至りでございます。

今後共、御指導御助言を切にお願い申し上げます。

昭和60年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤 井 黎

目 次

序	
目 次	
例 言	
I. 事業報告	1
1. 管理関係	1
(1) 一般文化財	1
(2) 補助事業	5
2. 調査関係	7
II. 調査報告	15
中田畑中遺跡	16
川添東遺跡	31
若林城跡	37
伊古田遺跡	43
III. その他	
郡山遺跡第1次五ヶ年発掘調査の概要	51
「東北古代稲作に関するシンポジウム」参加報告	54
山内遺跡土壌のプラントオパール分析報告	56

例 言

1. 本書は、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係、文化財調査係が昭和59年度に行った文化財の調査、普及・啓蒙活動、保護管理に関する各事業についての年度報告書である。
2. 調査報告は、昭和59年度実施した発掘調査のうち独自に概報もしくは報告書にまとめるに至らなかった小規模な発掘調査4件の概報を掲載した。
3. 調査報告のうち、中田畑中遺跡・川添東遺跡については田中則和のレポートをもとに、早坂春一が執筆した。図・表等は田中が担当した。
4. 本書の編集は、文化財調査係結城慎一、文化財管理係山口宏があたったが、係員全員の協力をあおいだ。

I. 事業報告

1 管理関係

(1) 一般文化財

1) 文化財保護委員会

本年は、定例会(隔月隔数月)6回及び臨時会1回、計7回開催した。各回の議題等の内容は次のとおりである。

開催月日	報告事項等	審議・協議事項等
4月10日(火)	・昭和58年度事業概要について ・昭和59年度事業計画について	・経ヶ峯の市史跡指定について (審議)
6月19日(火)		・経ヶ峯伊達家墓所の市史跡指定について (審議)
8月21日(火)	・郡山遺跡発掘調査現場視察(第44次、第46次) ・経ヶ峯伊達家墓所の史跡指定告示について	・仙台北城跡の史跡指定問題について (協議)
10月23日(火)		・市指定史跡経ヶ峯伊達家墓所の現状変更(公子公女廟整備)について (審議) ・仙台北城跡の保存問題について (協議)
12月4日(火)	・本市の文化財保護行政の現状と課題について	
2月12日(火)		・仙台市博物館所蔵の文化財指定候補物件について (協議)
3月28日(木) ※臨時会		・仙台市博物館所蔵物件の市文化財指定について(視察及び協議)

なお、委員定数(15名)上1名欠員となっていたが、昭和59年8月1日付で補充を行ない、東北大学名誉教授の河上房義氏(専攻:土木工学)を新委員に委嘱した。また、11月30日をもって第11期の任期が満了となり、翌12月1日付で第12期の委員会が発足した。退任、新任の各委員は次のとおりである。

(退任)

安倍郁二委員(三島学園大学教授、専攻:工芸)

高橋高雄委員（東北大学教授～昭和60年3月退官、専攻：日本史）

〔新任〕

近江 隆委員（東北大学助教授、専攻：都市計画）

大石直正委員（東北学院大学教授、専攻：日本史）

※大石委員は昭和60年1月1日付で委嘱。

2) 文化財パンフレット

今年度においては、第9集として「仙台城跡」を、第10集として「幻の城柵――郡山遺跡」を刊行した。

3) 説明板・標柱の設置

今年度においては、説明板2基標柱3基の計5基を設置した。設置箇所は次のとおり。

〔説明板〕 山台上台遺跡、国史跡・陸奥国分尼寺跡（GRC製）

〔標柱〕 北目城跡、若林城跡、人來田遺跡（萩ノ台遺跡）

4) 「由緒ある町名・通名と八十八辻」辻標の設置

昭和59年12月17日に選定委員会（佐々久委員長）を開催し、その協議結果に基づいて次の5基を設置した。

○山上清水/唎坂（八幡五丁目中村洋服店前） ○茂市ケ坂/元寺小路（本町一丁目第一日本オフィスビル前） ○木ノ下/東街道（木ノ下四丁目猿岡内科医院前） ○六道ノ辻（中央一丁目国鉄北目町通ガード入口） ○鹿落坂/越路（向山二丁目エスパシオ向山前）

今年度設置分を含め、設置総数は44基となった。なお、「由緒ある町名・通名と八十八辻」選定委員会の発足以来委員の任にあたられた森権五郎氏が昭和59年8月2日逝去されたことに伴い、後任の委員として仙台国南萩陵高等学校教頭の高倉 淳氏に委嘱した。

5) 文化財めぐり

市民の文化財に対する理解と認識を深め、あわせて文化財保護思想の高揚をはかるため、市内外の身近に存在する文化財に接する機会として、下記のとおり計5回の文化財めぐりを実施した。

実施月日	行 事 名	講 師 等	参 加 者	コ ー ス 等
6月10日(日)	「仙台城跡 みる・きく・考える」	佐藤 憲・ (博物館主査)	高校生以上の 市民 115名	仙台城本丸跡～御裏林～二ノ丸 ～三ノ丸(巽門発掘調査現場)
7月23日(月)	「古墳をたずねて」	文化財調査係職 員	小学校5、6 年生と親59名	雷神山古墳～三神塚遺跡～遠兄 塚古墳～法願塚古墳 他
8月18日(土)	「郡山遺跡と多賀城跡」	桑原滋郎(東北 歴史資料館)	中学生・高校 生 50名	郡山遺跡～東北歴史資料館～多 賀城跡

10月14日(日)	「古代の役所と寺院跡を たずねて」	文化財調査係職 員	高校生以上の 市民 70名	第47次調査区～第24・35次同～ 第4・7次同～諏訪神社～第12 次同～第15次同
11月18日(日)	「岩 切 城 跡」	藤沼邦彦(県文 化財保護課) 小井川和夫(東 北歴史資料館)	高校生以上の 市民 76名	東光寺～磨崖仏・板碑群～ 国史跡岩切城跡

6) 文化財講座・シンポジウム

文化財の啓蒙普及事業として、次のとおり2回の講座及び1回のシンポジウムを実施した。

実施月日	テ ー マ	会 場	講 師 等	参加者
6月23日(土)	第12回文化財講座 「仙台城の魅力をかぐる」	中央公民館	①小林清治氏(福島大学教授)	① 102名
6月30日(土)	① “城郭史のなかの仙台城” ② “建築史からみた仙台城”		②佐藤 巧氏(東北大学教授)	② 101名
7月14日	第13回文化財講座 「郡山遺跡と多賀城」	東長町小学校	桑原滋郎氏(東北歴史資料館研究部長)	120名
8月4日(土)	公開シンポジウム 「郡山遺跡と古代東北」	読売ホール	伊東信雄氏(東北学院大学教授) 関田茂弘氏(国立歴史民俗博物館教授) 工藤雅樹氏(宮城学院大学教授) 桑原滋郎氏(東北歴史資料館研究部長) 道藤秋輝氏(多賀城跡調査研究所) 藤沼邦彦氏(県文化財保護課)	130名

7) 考古展等

次のとおり計6回にわたり開催した。

会 期	テ ー マ	会 場	備 考
6月16日 ～7月7日	「知られざる名城 仙名城展」	中央公民館 情報コーナー	中央公民館での展示終了後、七十七 銀行本店ロビー(7/6～7/16)長銀仙台 支店(7/16～7/26)で引続き開催
7月8日 ～9月28日	「仙台の考古展〈常設展〉」 「仙台の旧石器・縄文時代展」	中央公民館 情報コーナー	
8月2日 ～8月7日	「幻の城柵 — 郡山遺跡展」	仙 台 市 民 ギャラリー	観覧者数 827名 会期中5日に 公開シンポジウム開催(6)参照

会 期	テ ー マ	会 場	備 考
10月9日 ～12月22日	仙台の考古展〈常設展Ⅱ〉 「仙台の弥生・古墳時代展」	中央公民館 情報コーナー	
1月9日 ～4月7日	仙台の考古展〈常設展Ⅲ〉 「仙台の奈良・平安時代展」	中央公民館 情報コーナー	
3月11日 ～3月23日	第7回仙台の考古展 「タイムカプセル富沢」	市役所本庁舎 1階ロビー	3/6及び3/8にスライド上映会を併せて開催

8) 文化財の指定

本年度においては、次の物件を仙台市指定記念物として新たに指定した。

種 別	名 称	所 在 地	指 定 年 月 日	所 有 者
記念物（史跡）	経ヶ峯伊達家墓所	仙台市豊屋下	昭和59年7月21日	仙台市、宗教法人 瑞鳳寺、他

経ヶ峯伊達家墓所の文化財指定により、市指定文化財の総件数は27件、その内、史跡では4件となった。

9) 文化財分布調査

仙台市内にある文化財の基台帳整備のため、岩切地区の遺跡分布調査及び東光寺内の板碑分布調査を実施した。

10) 文化財指定候補物件調査

次のとおり建造物3件並びに仏像2件の計5件について委託調査を実施した。

種 別	調 査 物 件 の 名 称	調 査 委 託 先
建 造 物	成覚寺山門、泰心院山門、莊嚴寺山門	東北大学工学部教授 佐藤巧氏
仏 像	木造釈迦如来立像、木造雲居国師坐像（いずれも大権寺蔵）	東北大学文学部教授 上原昭一氏

11) 無形民俗文化財記録保存

市内に伝承されている民俗芸能等についての記録作成及び伝承者・団体の意識高揚に資するため開始。本年度は七郷神社白山丹波神楽のビデオ撮影を9月15日(土)に実施した。

12) 指定文化財の維持管理

国指定史跡陸奥国分寺跡及び市指定史跡三沢初子の墓などの除草清掃、並びに国指定史跡陸奥国分尼寺跡の除草・樹木剪定を委託により実施した。また、山口上ノ台遺跡についても除草清掃を同じく委託により実施した。

13) 文化財の防災点検

恒例の文化財防火デー（1月26日）に伴い、市消防局による事前点検（3/6・3/8・3/8）が計13ヶ所で、また防火デー当日には防災訓練が計6ヶ所でそれぞれ実施された。

(2) 補助事業

[1] 県費補助事業

1) 指定文化財保存事業

大崎八幡神社（国宝・重文）、東照宮（重文）、陸奥国分寺薬師堂（重文）の3件について、防災設備の一部修理・保守点検などの維持管理事業に対し補助を行なった。

2) 無形文化財保存事業

宮城県指定無形文化財の館山甲午氏（平曲技術保持者）、甲山綾郎氏（精好仙台平技術保持者）、及び同無形民俗文化財の大崎八幡神社能楽保存会の計2個人1団体の技術保持事業に対し補助を行なった。

[2] 国庫補助事業

1) 史跡陸奥国分寺跡土地買上げ事業

目的：史跡陸奥国分寺跡の保存保護を図るため、史跡指定地の公有化を図る。

土地公有化の実績：土地の公有化は昭和43年度から着手し、昭和58年度末までに杜寺有地を中心に主要堂塔跡18,967.32㎡を買収している。

今年度の事業：今年度は南大門跡南側の民有地外2件の民地789.61㎡の公有化を実施した。

2) 史跡遠見塚古墳環境整備事業

目的：史跡遠見塚古墳の保存、保護を図ると共に、市民に活用してもらうことを目的として、昭和50年度から環境整備事業を実施している。

実績：昭和50年度からこの事業に着手した。整備の資料をうるため発掘調査を行い、その成果に基づいて、整備工事を行っている。昭和58年度から古墳墳丘部の整備に着手し、昭和61年度までにすべての整備が終了する予定である。

今年度の事業：昨年度に引き続き、古墳墳丘部・前方部の盛土整形工事を実施すると共に、同温部の表示工事を行った。

今後の事業：60年度、便益施設の設置工事、61年度で説明板の設置工事・修景工事を実施し、最終となる予定である。

3) 史跡岩切城跡保存管理計画策定事業

仙台市岩切から利府町神谷沢にまたがり、岩切城跡という中世の山城遺構がある。この山城遺構は昭和57年8月23日付で国の史跡に指定され、この岩切城跡を今後どう保存し活用していくかの基本方針を定めるために、この事業を実施した。保存管理計画を策定するにあたり、学識経験者8名をもって委員会を組織し、その中で基本方針をもんでいただいた。その後、「史跡岩切城跡保存管理計画書」としてまとめ、これからの岩切城跡管理の基本指針としていくものである。

4) 郡山遺跡ほか発掘調査事業

郡山遺跡範囲確認調査

今年度は第1次5ヶ年計画の最終年度にあたり、Ⅱ期官衙政庁の存在を確認することを目的に第44次、第48次調査の2ヶ所を調査を実施した。第44次調査で発見された遺構は、独立柱建物跡5棟、竪穴住居跡6軒、竪穴遺構1基、溝跡14条、土壇40基、性格不明遺構1基、小柱穴、ピット約130である。このうちⅡ期官衙に属するのは独立柱建物跡1棟(N-3°-E)のみで、他の独立柱建物跡、竪穴住居跡などはN-31°~36°-Eの範囲内でおさまり、Ⅰ期官衙に属するものと考えられた。またこの調査区からは、遺構検出時や遺構の堆積土中より土師器、須恵器と共に樹形囲式期の弥生土器片が多数出土した。第48次調査で発見された遺構は、独立柱建物跡2棟、竪穴住居跡15軒、材木列2列、溝跡3条、土壇15基、井戸跡1基、小柱穴、ピット約380などである。この調査区はⅡ期官衙仮想中軸線が通る位置にあたるが、発見された遺構のうち竪穴住居跡、材木列などはN-33°-EあるいはN-40°-E前後振れたものでⅠ期官衙に属するものばかりであった。

このようにⅡ期官衙政庁の存在が予想された地域であったが、発見された遺構はⅠ期官衙の遺構群が主であった。

この他に同遺跡内で個人住宅の建築、水道管の埋設工事などに伴い「仙台平野の遺跡群」において、発掘調査を実施した。調査は第43、45、46、47、49次の5ヶ所で、そのうち成果をおさめたものについて記しておく。第43次調査では、Ⅱ期官衙外郭の大溝と材木列を検出した。また隣接する第47次調査でも外郭の大溝を検出した。第46次調査は第12次調査で発見した基壇建物跡の南側で、軒丸瓦、鰯尾をはじめ多くの瓦を出土し、古代に属すると考えられる溝跡などを検出した。また第49次調査ではⅡ期官衙外郭北辺の大溝と材木列を、推定線より約5m南の位置で確認した。これによって外郭の四辺が確定し、材木列間で南北長422.73m、東西長428.44mである。

仙台平野の遺跡群

項目	郡山遺跡 (C-104)								
	第43次発掘調査	第45次発掘調査	第46次発掘調査	第47次発掘調査	第49次発掘調査				
所在地	仙台市 神宮町3丁目3	宮沢1丁目 10-8	川内無基地	白根P3H-2	郡山6丁目 212-2 郡山2丁目 11-17 高松3丁目 13-2	郡山5丁目 42-3A, 43-7 高松3丁目 13-2	郡山5丁目 148-10	郡山2丁目 11-16	郡山2、3丁目 地内
申請者住所	仙台市長府 1丁目3-24	中(2)丁目 15-30	博覧館外環工事 に先行する遺跡 確認調査	土地公有化に伴 う遺跡確認調査	宮地 塚二郎	遠藤敏夫・金子 佐藤みよ子	北井沢 正 敏	仙台市水道事業 局等	仙台市長府 7-1 仙台市水道事業 局等 仙台市長府 宮地 塚二郎
申請者氏名	佐竹 宗吉	伊藤 幸夫							
発見内容	銀行支店建設 共同住宅新築	共同住宅新築			住宅新築	生宅新築	倉庫新築	住宅新築	中環管埋設工事
対象面積	208.7㎡	182.66㎡	—	170㎡	150㎡	270.71㎡	264.25㎡	305.07㎡	315㎡
調査面積	54㎡	33㎡	180㎡	89㎡	130㎡	40㎡	64㎡	50㎡	315㎡
調査期間	昭和29年 5月26日～6月29日	昭和29年 6月26日～7月24日	5月27日～7月11日	昭和29年 昭和30年 5月22日～6月15日	昭和29年 昭和30年 4月22日～4月28日	5月18日～6月25日	7月18日～8月25日	9月18日～9月28日	昭和30年～8月3日

仙台市内に分布する主要な遺跡の中で行われる小規模な開発（個人住宅の建築等）に対応するために実施される発掘調査事業である。今年度は9件について対応した。詳細は次のとおりである。

2. 調査関係（昭和59年度埋蔵文化財発掘調査事業概要）

昭和59年度の発掘調査事業は、公共事業に係る緊急発掘調査として①伊古田 ②下ノ内 ③下ノ内浦 ④富沢水田 ⑤六反田 ⑥松木の各遺跡、民間開発に係る緊急発掘調査として⑦及び⑧中田畑中 ⑨欠ノ上I ⑩及び⑪南小泉 ⑫伊古田Ⅱの各遺跡、仙台市としての発掘調査で⑬山田上ノ台遺跡、国庫補助事業の調査としては⑭郡山遺跡 ⑮仙台平野の遺跡群の各発掘調査がある。以下それぞれの概略について触れる。

①伊古田遺跡では、縄文時代後期中葉の遺物包含層から多量の土器片とともに日本でも最大級の土偶を含む10体分の破片が出土。平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出

②下ノ内遺跡では、縄文土器片（中期）が若干出土したのみ。

③下ノ内浦遺跡では、縄文時代早期前葉の竪穴遺構と押型土器を確認、後期前葉の配石遺構が9基検出されたが、墓である可能性が強い。また土器片や石器も多数出土。奈良～平安時代の住居跡8軒も検出。

④富沢水田遺跡では、平安時代の水田跡を2枚、弥生時代の水田跡を2枚検出。弥生時代については大畦と小畦、単位面積12㎡前後を確認。

⑤六反田遺跡では、縄文時代後期の竪穴住居跡9軒と多量の土器や石器を伴う遺物包含層を検出。古墳～平安時代の竪穴住居跡7軒検出。

⑥松木遺跡では、平安時代の竪穴住居跡1軒、中世の溝跡2条と多数の中世陶器片を確認。

⑦、⑧中田畑中遺跡では、平安時代の竪穴住居跡2軒、溝、土壌を検出。

⑨欠ノ上I遺跡では、平安時代の水田を1面検出。

⑩、⑪南小泉遺跡では、弥生時代の竪穴遺構1基、古墳～平安時代の竪穴住居跡5軒を検出。

⑫伊古田遺跡では、小溝状遺構、時期不明の円形周溝1基を検出。

⑬山田上ノ台遺跡では、接合資料3組、断面を剥ぎとり仙台市の博物館へ展示。

⑭郡山遺跡、⑮仙台平野の遺跡群については、前述の国庫補助事業の項目を参照。

昭和59年度 発掘調査の概略

No.	遺跡名	時代	種類	対象面積	調査面積	調査期間	担当職員	報告書	備考
①	伊占田	古墳～平安	墓落跡	1,100㎡	590㎡	1/6～1/6	千葉・高橋・佐藤(美)		公共事業
②	下ノ内	縄文～平安	+	600㎡	560㎡	1/6～1/6	工藤・佐藤(美)・千葉		+
③	下ノ内浦	奈良～平安	+	1,200㎡	1,200㎡	1/6～1/6	吉岡・主浜・千葉・佐藤	第82集	+
④	高沢水田 (鳥居塚)	弥生～平安	水田跡	1,800㎡	730㎡	1/6～1/6	藤原・斎野		+
⑤	六反田	縄文～江戸	墓落跡	840㎡	904㎡	1/6 ^{S60} ～1/6	佐藤(洋)・渡部		+
⑥	柳生・岡崎	古墳～平安	+	1,800㎡	1,800㎡	1/6～1/6	及川・菅原・工藤		+
⑦	中田畑中-1	古墳・平安	+	830㎡	120㎡	1/6～1/6	佐藤(甲)・渡辺	第78集	民間開拓地
⑧	中田畑中-2	+	+	824㎡	25㎡	1/6～1/6	田中	第83集	+
⑨	欠ノ上 I	古墳～平安	水田跡	18,300㎡	3,000㎡	1/6～1/6	佐藤(甲)・小野寺	第79集	+
⑩	南小泉-1	平安	墓落跡	100㎡	100㎡	1/6～1/6	佐藤(甲)	第80集	+
⑪	南小泉-2	+	+	40㎡	30㎡	1/6～1/6	渡辺	第81集	+
⑫	山田美風	奈良	水田跡	100㎡	30㎡	1/6～1/6	金森	第83集	+
⑬	新	縄文～平安	遺物散布地	100㎡	9㎡	1/6～1/6	金森	+	+
⑭	伊古山Ⅱ	古墳	墓落跡	344㎡	273㎡	1/6～1/6	渡辺・金森	+	+
⑮	川添東	縄文	包含地	240㎡	50㎡	1/6～1/6	田中	+	+
⑯	善林城	中・近世	城跡跡	600㎡	33.8㎡	1/6～1/6	佐藤(隆)・田中	+	+
⑰	山田上ノ台	旧石器・縄文	墓落跡	80㎡	80㎡	1/6～1/6	及川・菅原		学術調査
⑱	郡山	古墳(末期)～奈良	宮衛跡	3,276㎡	3,034㎡	1/6～1/6	木村・長島・松本	第74集	国庫補助
⑳	高沢水田	弥生～平安	水田・墓落跡	206㎡	54㎡	1/6～1/6	田中		+
㉑	山口	縄文～弥生 奈良～中世	墓落・水田跡	182㎡	33㎡	1/6～1/6	田中		+
㉒	山台城	近世	城跡跡		180㎡	1/6～1/6 1/6～1/6	金森	第75集	+
㉓	陸奥国分寺 尾	奈良	寺院跡	170㎡	89㎡	1/6 ^{S60} ～1/6	渡辺・斎野		+

昭和59年度発掘届(通知)一覽

昭和60年3月15日現在

発掘 番号	遺跡名	所在地	原因	発掘面積	地 質	遺跡の時期	
1	C-401	堤町 藤野	堤町一丁目	住宅新築	67.06㎡	立 会 い	縄持(平安時代)
2	*	堤町 藤野	堤町一丁目	住宅新築	71.64㎡	*	竊持(平安時代)
3	C-361	富沢 水田	富沢一丁目121	店舗付住宅新築	79.49㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降)
4	C-109	入 葉 山	茂原字入葉山11-29	住宅新築	103.63㎡	*	鳥居跡(縄文(中期))
5	C-108	上 野	富田字上野29-1	住宅増築	9.31㎡	*	鳥居跡(縄文、奈良、平安)
6	C-508	東光寺稲藁	向野字入山22	幼稚園増築	27.00㎡	*	竊持(中世)
7	C-224	鶴 寺 I	横富字小原 番27-3	土地形調査	1725.16㎡	*	鳥居跡(平安時代)
8	C-215	砂 野 Ⅱ	沖野字砂野61	物産新築	26.09㎡	*	遺物敷布地(古墳、奈良、平安時代)
9	C-102	南 小 泉	遠見塚一丁目13-7	住宅増築	97.09㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
10	*	南 小 泉	遠見塚二丁目222-54	住宅新築	93.00㎡	*	*
11	C-301	富沢 水田	富沢一丁目10-8	共同住宅の新築	182.64㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降)
12	C-287	久ノ上 I	西山字久野西1の1外11番	宅地造成	18,494.66㎡	事 前	生原跡(古墳、奈良、平安時代)
13	C-181	本 郷	成原字町山54番地	住宅増築	70.00㎡	立 会 い	鳥居跡(平安時代)
14	C-104	富沢 水田	成野字山崎西100-10	住宅増築	13.90㎡	*	鳥居跡(縄文、弥生、古墳、奈良、平安)
15	C-301	富沢 水田	長町南四丁目10-10	駅前井沢 倉庫増築	36.00㎡	*	生原跡(弥生一平安時代)
16	C-102	南 小 泉	遠見塚一丁目4-7 番地先	水廻り付住宅	477.30㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
17	C-208	後 河 原	小田町字南河原29-2 30-1 31	宅地造成	1,300.54㎡	事 前	鳥居跡(奈良一平安時代)
18	C-102	南 小 泉	遠見塚一丁目11-3	住宅新築	74.02㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
19	C-135	溝ノ 原	富田市豊田中9番	住宅新築	314.64㎡	試 掘	鳥居跡(内城一古墳)
20	C-102	南 小 泉	遠見塚一丁目5-34	護管による新築	48.33㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
21	*	南 小 泉	遠見塚一丁目15-29	住宅の増築	31.14㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
22	*	南 小 泉	遠見塚三丁目1-1	新築新築	122.90㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
23	C-104	都 山	都山三丁目27番地内	仙台市都山庁舎敷地 六軒掘り工事	140.00㎡	立 会 い	宮内跡(内城(末期)一奈良時代)
24	C-301	富沢 水田	東崎一丁目10-2	貸家新築	4.00㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降)
25	*	富沢 水田	泉崎二丁目1-2	貸家新築	56.31㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降)
26	C-301	山 心 城	川内道尾無善地地蔵院住宅54号	解体新築	42.071㎡	*	城跡跡(南北朝一江戸時代)
27	C-301	富沢 水田	長町南四丁目16-2	住宅新築	53.73㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降)
28	C-444	寺 原 跡	内原五丁目18-23	住宅新築	98.210㎡	*	竊持(平安時代)
29	C-102	南 小 泉	遠見塚東19番地	新 築	1,250.00㎡	試掘並事務	鳥居跡(弥生一平安時代)
30	C-104	都 山	都山五丁目10番1号	既設教室増築	139.64㎡	立 会 い	宮内跡(古墳(末期)一奈良時代)
31	C-304	蓬ヶ 崎 池	長町字茂ヶ崎38-15	住宅増築	56.37㎡	*	竊持(南北朝一室町)
32	C-301	富沢 水田	泉崎一丁目23	住宅新築	138.70㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降)
33	C-225	鶴 寺 Ⅱ	横富字小原一番12-1 他6番	事務所付工事新築	50.00㎡	*	宮内跡(平安時代)
34	C-211	中山 畑中	長原字小平5番	分譲住宅敷地 道路新設及び 雨水排水管理設工事	824.00㎡	試掘並事務	宮内跡(奈良一平安時代)
35	C-175	神 原 原	廣生二丁目2番6		1,807.000㎡	立 会 い	遺物敷布地(奈良、平安) 平安期住宅新築
36	C-172	神 原 社 裏	長江7番地		65.42㎡	*	宮内跡(奈良、平安時代)
37	C-102	南 小 泉	古崎一丁目207-8	住宅新築	60.00㎡	*	宮内跡(弥生一平安時代)
38	C-135	溝ノ 原	成野字溝ノ原168-3	住宅新築	17.38㎡	*	鳥居跡(古墳一中期)
39	C-522	谷 宮 前	岩野字入山72-2 72-3	専用住宅新築	47.9㎡	*	竊持(縄文、内城、平安、中世、近世)
40	C-505	北 月 城跡	都山字都ノ内55-1	水道事務所建設	19.87㎡	*	竊持(縄文、内城、平安、中世、近世)
41	C-135	溝ノ 原	岩野字溝ノ原169-12	住宅新築	17.36㎡	*	鳥居跡(古墳一中期)
42	C-102	南 小 泉	古崎二丁目207-9	住宅新築	85.41㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
43	*	南 小 泉	南小泉字村東町-2	事務所新築	403.00㎡	*	鳥居跡(弥生一平安時代)
44	C-171	二 の 森	二の森22-37 他2	編 織 工 事	369.17㎡	*	遺物敷布地(平安時代)
45	C-104	都 山	都山五丁目42-3 43-7	住宅新築	81.14㎡	事 前	宮内跡(古墳(末期)一奈良時代)
46	C-108	上 野	富田字上野中126	住宅解体新築	107.239㎡	立 会 い	鳥居跡(縄文、奈良、平安時代)
47	C-301	富沢 水田	長町南三丁目35-7	増 築	44.34㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降) 鳥居跡(古墳、平安時代)
48	C-301	富沢 水田	長町三丁目220番4	事務所建築	40.43㎡	*	生原跡(弥生一平安、平安以降)

別冊 番号	道 路 名	所 在 地	区 画	開発面積	地 置	道路の性格	
49	C-301	富沢水田	富沢二丁目3-17		34.30㎡	全 会 い	宅前路 (宅生～平安、平安以降)
50	C-235	地 蔵 池	六丁目字伴尾前11-1		400.00㎡	試 掘	富澤路 (中世)
51	C-104	郡 山	郡山三丁目50-5		82.81㎡	立 会 い	富澤路 (古墳(末期)～奈良時代)
52	C-104	郡 山	郡山六丁目13-16		162.74㎡	*	富澤路 (内城(末期)～奈良時代)
53	C-102	南 小 森	遠見塚一丁目、二丁目、古城三丁目		1,300.00㎡	試 掘	富澤路 (宅生～平安時代)
54	C-104	郡 山	郡山三丁目14-3-18-21 郡山五丁目12-7-12-9		344.00㎡	立 会 い	富澤路 (内城(末期)～奈良時代)
55	C-502	神 切 城	近辺有難敷地内		63.84㎡	*	富澤路 (鎌倉～室町)
56	C-285	坂ヶ丘 8	長塚20-18		300.00㎡	試 掘	富澤路 (平安時代)
57	C-301	富沢水田	長町南三丁目16-16		63.84㎡	立 会 い	富澤路 (宅生～平安、平安以降)
58	C-542	笹 森 池	鶴ヶ谷字池下21-2		33.01㎡	*	富澤路 (中世)
59	C-225	鶴 巻 目	福生字鶴巻2番地3	山梨学生会 敷地内	86.36㎡	試 掘	富澤路 (平安時代)
60	C-64	仙 内 森	川内宿郷住宅11号		42.12㎡	立 会 い	富澤路 (南北朝～江戸時代)
61	C-135	滝ノ原	岩切字滝ノ原199-11		86.86㎡	*	富澤路 (古墳～中世)
62	C-301	富沢水田	長町南四丁目12-9		7.36㎡	*	富澤路 (宅生～平安、平安以降)
63	C-102	南 小 森	遠見塚一丁目16-1、2		102.27㎡	*	富澤路 (宅生～平安時代)
64	C-102	遠町富澤	仙内市道町二丁目6		147.55㎡	*	富澤路 (平安時代)
65	C-507	今 泉 林	今泉字久保原85-17		92.71㎡	*	富澤路 (中世)
66	C-135	滝ノ原	岩切字滝ノ原89-1		71.52㎡	*	富澤路 (古墳～中世)
67	C-225	鶴 巻 目	福生字鶴巻2番地3-1 他7		66.15㎡	*	富澤路 (平安時代)
68	C-102	南 小 森	遠見塚一丁目42-32 41		38.82㎡	*	富澤路 (宅生～平安時代)
69	C-211	中 田 畑 中	安梨字畑中地内		360.00㎡	試 + 掘	富澤路 (奈良～平安時代)
70	C-224	鶴 巻 目	福生字鶴巻1番地3-1 他8		135.00㎡	立 会 い	富澤路 (平安時代)
71	C-102	南 小 森	遠見塚二丁目628-1		49.68㎡	*	富澤路 (宅生～平安時代)
72	C-104	郡 山	郡山一丁目18-14		165.62㎡	*	富澤路 (古墳(末期)～奈良時代)
73	C-301	富沢水田	富野三丁目21番1番7番		149.96㎡	*	富澤路 (宅生～平安、平安以降)
74	C-104	郡 山	郡山五丁目148-10		79.43㎡	事 前	富澤路 (古墳(末期)～奈良時代)
75	C-301	富沢水田	泉崎一丁目8 11		164.85㎡	立 会 い	富澤路 (宅生～平安、平安以降)
76	C-428 6	遠町富澤	遠町二丁目114-298		58.24㎡	*	富澤路 (平安時代)
77	C-671	富沢水田	南小森字深淵敷字25-19		40.35㎡	*	奈良、平安期の行政(内)(平安時代)
78	C-234	南 栗 敷	六丁目字東山末7番		1,747.00㎡	*	富澤路 (平安時代)
79	C-106 1	上 野	野田字上野409-3		70.65㎡	*	富澤路 (縄文、奈良、平安時代)
80	C-104	郡 山	郡山六丁目3番池内	沼引真野人木橋 沼引真野橋工事	818.4㎡	*	富澤路 (古墳(末期)～奈良時代)
81	C-108 上	野	富山字上野中16-2		83.20㎡	*	富澤路 (縄文、奈良、平安時代)
82	C-301	富沢水田	泉崎二丁目25-2		233.58㎡	*	富澤路 (宅生～平安、平安以降)
83	C-135	滝ノ原	岩切字上北825-27		19.47㎡	*	富澤路 (古墳～中世)
84	C-291	山 口 菜 山	山田字新田下小字南地		1000.00㎡	*	富澤路 (奈良時代)
85	C-104	郡 山	郡山三丁目27-10		101.26㎡	*	富澤路 (古墳(末期)～奈良時代)
86	C-144A C-183	山 口 菜 山 山田上ノ倉	山田字飯沼21-6		110.76㎡	*	富澤路 (古墳(末期)～奈良時代) 富澤路 (田代郡)
87	C-108 上	野	富田字上野中上野池内		600.00㎡	*	富澤路 (縄文、奈良、平安時代)
88	C-242	上杉六丁目	上杉六丁目10-13		123.65㎡	*	富澤路 (平安時代)
89	C-530	富 沢 池	富沢字鶴7-4		104.81㎡	*	富澤路 (平安時代)
90	C-401	遠町富澤	遠町二丁目114-264		79.43㎡	*	富澤路 (平安時代)
91	C-102	南 小 森	遠見塚一丁目115-11 115-28		96.37㎡	*	富澤路 (宅生～平安時代)
92	C-102	南 小 森	南小森字村東8-18		90.00㎡	*	富澤路 (宅生～平安時代)
93	C-142	向山毛森	八木山町町1-1		20.000㎡	試 掘	富澤路 (縄文(中期))
94	C-301	富沢水田	長町南一丁目9-11 上野字遠淵20,40,41,41-1 42,2,42,3,43-1,43-2		62.00㎡	立 会 い	富澤路 (宅生～平安、平安以降)
95	C-272	河 原 林			54.00㎡	試 掘	富澤路 (内城(末期),奈良,平安時代)
96	C-109	坊 主 門	福生字西富神3		85.14㎡	立 会 い	富澤路 (古墳(末期),奈良)

発着 番号	道路名	所在地	原因	開発面積	地 質	地 質 の 世 帯	
97	C-102	南 小 森	国小森邸 后10-2	宅 地 建 設	2,487.96㎡	準 前	高層跡 (発生-平安時代)
98	C-369	坊 上 門	兜寄字坊上門9	住 宅 新 築	13.66㎡	立 会 い	遺物散布地 (縄文(早,前期)奈良)
99	C-301	高 沢 水 田	泉郷一丁目14-11	店 舗 新 築	31.00㎡	立 会 い	生野跡 (発生-平安,平安以降)
100	C-514	岡 分 給 地	原町南1丁目170, 172	住 宅 新 築	120.00㎡	沢 堀	城跡 (中世)
101	C-141	高 澤 沢	越ヶ谷町第31-20	住 宅 新 築	5.00㎡	立 会 い	遺物散布地 (縄文,奈良,平安)
102	C-501	仙 台 城	川内西園地敷地 築港住宅177号	住 宅 建 設 新 築	69.42㎡	*	城跡跡 (南北朝-江戸時代)
103	*	仙 台 城	川内西園地敷地 池田住宅99号	住 宅 建 設 新 築	49.50㎡	*	*
C-141	高 澤 沢	越ヶ谷町第31-1	住 宅 新 築	5.00㎡	*	遺物散布地 (縄文,奈良,平安)	
C-404	大 塚 寺 橋 穴	向山町 108-20	共 同 住 宅	92.00㎡	*	古墳 (古墳時代)	
C-233	山 口	高沢一丁目7-5	住 宅 新 築	202.47㎡	*	集落跡 (縄文,発生,古墳,奈良,平安中世)	
C-141	高 澤 沢	越ヶ谷町第31-2	住 宅 新 築	5.00㎡	*	遺物散布地 (縄文,奈良,平安)	
C-177	宿 河	中野字宿河47 3, 5, 7	工 場 新 築	143.39㎡	試 掘	遺物散布地 (奈良,平安)	
C-527	長 草 成 新	比叡城字宮殿敷16	農 作 場 覆 及 び に 在 れ ぬ 瓦 葺	69.85㎡	立 会 い	城跡 (中世)	
C-251	堀 岸	長崎字堀岸31-3, 33 2, 33-6	住 宅 新 築	45.37㎡	*	集落跡 (縄文(後期,中期))	
C-401	足 野 宮 跡	堀町一丁目25-2	地 産 物 新 築	75.00㎡	*	城跡跡 (平安時代)	
C-227A	北 堀	越ヶ谷字大久保1133番10	住 宅 新 築	30.00㎡	*	塚跡	
C-102	南 小 森	高城三丁目27-1	高 層 住 宅 七	192.94㎡	*	高層跡 (発生-平安時代)	
C-301	高 沢 水 田	池野二丁目221-9	住 宅 新 築	74.52㎡	*	生野跡 (発生-平安,平安以降)	
C-104	郡 山	郡山三丁目11-63	出 産 住 宅	88.410㎡	*	官衙跡 (古墳(末期)-奈良時代)	
C-200	人 桑 山 B	人桑山西44番地先	公 井 下 水 道 工 事	183.00㎡	試 掘	集落跡 (古墳,平安)	
C-135	郡 ノ 瀬	越野字ノ瀬163-2	住 宅 新 築	107.31㎡	*	高層跡 (古墳-中世)	
C-104	郡 山	郡山二丁目11-16	*	109.75㎡	試 掘	官衙跡 (古墳(末期)-奈良時代)	
C-501	仙 台 城	川内西園地	ラ ー ス コ ー ト 造 成	2,500㎡	立 会 い	城跡跡 (南北朝-江戸時代)	
C-301	高 沢 水 田	高沢二丁目207-12	住 宅 新 築	72.87㎡	*	生野跡 (発生-平安,平安以降)	
C-413	安 久 東	西中田四丁目2-1	肉 類 新 築	89.00㎡	*	集落跡 (発生,古墳(前期)奈良,平安,中世,近世)	
C-234	堀 野 敷	六丁目2号田北,2	事 務 所 ・ 倉 庫 新 築	2,913.43㎡	*	高層跡 (平安時代)	
C-520	高 沢 館	高沢字川原敷47 4 敷地敷地高31-1 高沢字高沢423-6	遊 園 地 設 備 工 事	101.80㎡	準 前	城跡 (戦国時代)	
C-152	鍛 冶 敷 敷 A	高沢字鍛冶敷1-1 高沢字鍛冶敷2-1	*	81.92㎡	*	高層跡 (縄文,奈良,平安時代)	
C-286	高 ノ 森	高沢字高ノ森1-2 高沢字高ノ森40-1	*	81.92㎡	*	高層跡 (発生,平安)	
C-106	上 野	高沢字上野129-3 高沢字上野西6-2	*	118.40㎡	*	高層跡 (縄文,奈良,平安)	
C-145	竹 ノ 内 前	高沢字竹ノ内町16-1	*	49.96㎡	*	遺物散布地	
C-294	山 田 菜 菜	山田字新田敷中429-3外	*	132.88㎡	*	高層遺構 (奈良時代)	
C-125	新 茂	茂庭字大沢41 3, 41-4	*	36.00㎡	*	高層跡 (縄文,古墳,平安時代)	
C-301	高 沢 水 田	兼城二丁目11-17	住 宅 新 築	98.87㎡	立 会 い	生野跡 (発生-平安,平安以降)	
C-501	仙 台 城	川内西園地住宅16号	*	49.39㎡	*	城跡跡 (南北朝-江戸時代)	
C-301	高 沢 水 田	高沢一丁目5-8	*	64.98㎡	*	生野跡 (発生-平安,平安以降)	
C-104	郡 山	郡山一丁目15-28	住 宅 新 築	18.22㎡	*	官衙跡 (古墳(末期)-奈良時代)	
*	*	郡山五丁目25-7	*	26.00㎡	*	*	
C-301	高 沢 水 田	原町南三丁目27-15	住 宅 新 築	26.00㎡	*	生野跡 (発生-平安,平安以降)	
*	*	高沢一丁目5-4	住 宅 新 築	173.09㎡	*	*	
*	*	長町一丁目1-5 長町一丁目3	新 市 街 区 温 泉 建 設	6,000.00㎡	準 前	*	
C-228B	原町南跡地	原町二丁目8-44	住 宅 新 築	23.19㎡	立 会 い	塚跡 (平安時代)	
C-101	高 沢	高沢東二丁目228, 229	住 宅 新 築	648.00㎡	試 掘	高層跡 (縄文,発生,内蔵,奈良,平安)	
C-505	北 丹 城	郡山四丁目6-10 外	上 水 道 配 分 管 敷 設	150.00㎡	立 会 い	城跡 (中世)	
C-421	東 野 集 落 跡	高小森字高野35-4	ア ー ト 建 設	7.50㎡	*	奈良,平安初期分取区画(平安時代)	
C-301	高 沢 水 田	原町三丁目28	住 宅 新 築	80.457㎡	*	生野跡 (発生-平安,平安以降)	
C-015	高 沢 水 田	西多敷一丁目220-2, 312-10	*	108.00㎡	*	古墳 (古墳時代)	
C-301	高 沢 水 田	高沢一丁目2-2	公 園 整 理 工 事	23,000㎡	*	生野跡 (発生-平安,平安以降)	

年度 番号	道路名	所在地	原因	開闢面積 ha	地 種	道路の性格
145	C-403	五木牧場跡	内原三丁目206-1, 606-2, 606-3, 606-4	2,890㎡	準 街	道路(平安時代)
146	C-108	上 野	富洲字上野中28-3	76,180㎡	立 会 い	集落跡(縄文, 奈良, 平安)
147	C-196	伊 古 山	大野田下野用7の1	344,560㎡	武 庫	集落跡(古墳, 奈良, 平安時代)
148	C-301	家沢水田	鹿野三丁目22-3	43.5㎡	立 会 い	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
149	*	*	*	*	*	*
150	C-104 C-505	郡山, 山古砦 北口集	郡山, 一, 二, 三, 四丁目地内	12,47㎡	*	官衙跡(古墳(末期)~奈良時代)集落跡(縄文, 弥生(中期)古墳)政庁(中世)
151	C-301	富沢水田	鹿野三丁目5-6	45㎡	*	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
152	C-104	郡 山	郡山三丁目112-9	116,34㎡	*	官衙跡(古墳(末期)~奈良時代)
153	*	*	郡山三丁目63	75,90㎡	*	*
154	C-507	今 泉	今泉字久保山97-1, 97-6	26,250㎡	*	道路(中世)
155	C-101	西 沢	西沢東三丁目14-23 18-22地先	6.0㎡	*	集落跡(縄文, 弥生, 古墳, 奈良, 平安)
156	C-507	香 林 城	古城三丁目3番1号	81.3㎡	準 街	道路(中世)
157	C-301	富沢水田	長町南三丁目8-7	169,96㎡	立 会 い	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
158	C-234	明 益 敷	六丁目字珠山南2-3	1172,02㎡	瓦 庫	集落跡(平安時代)
159	C-194	青 葉 山 丘	沢倉字青葉	316㎡	*	田舎跡
160	C-501	輪 台 集	川内1番地	107㎡	立 会 い	城跡跡(南北朝~江戸時代)
161	C-429	六 田 集	鹿野三丁目1-34	130,00㎡	*	道路(平安時代?)
162	C-168	北 原 敷	大野田字北原敷31-4 外	1945,38㎡	武 庫	集落跡(平安, 中世, 江戸末期, 明治初期)
163	C-108	上 野	富洲字上野東9-8	52,17㎡	立 会 い	集落跡(縄文, 奈良, 平安)
164	C-301	富沢水田	富洲字豊崎	7.4㎡	*	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
165	C-102	南 小 泉	古城三丁目34 1, 33-1, 35-1, 36-1	1,834,50㎡	*	集落跡(弥生~平安時代)
166	C-183	南 小 泉	衛生一丁目3番先	190,21㎡	*	集落跡(弥生~平安時代)
167	C-102	南 小 泉	造美塚一丁目26-9 26-10	96,44㎡	*	集落跡(弥生~平安時代)
168	C-301	富沢水田	長崎一丁目34の2	118,51㎡	*	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
169	C-429	東 原 集	南小泉字七輪坂-1 外	4,546,21㎡	準 街	奈良, 平安朝の行政区画(平安時代)
170	C-301	富沢水田	豊崎二丁目1番2	226,00㎡	立 会 い	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
171	C-104	郡 山	郡山三丁目204-9	60,530㎡	準 街	官衙跡(古墳(末期)~奈良時代)
172	C-102	南 小 泉	流見塚二丁目8-17	66,17㎡	立 会 い	集落跡(弥生~平安時代)
173	C-104	郡 山	郡山六丁目4番21号先 外	92.4㎡	*	官衙跡(古墳(末期)~奈良時代)
174	C-301	富沢水田	長町南三丁目9-3	800㎡	準 街	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
175	C-104	郡 山	郡山六丁目1-45番地先	96.0㎡	立 会 い	官衙跡(古墳(末期)~奈良時代)
176	C-445	長谷川集	小松島三丁目5-2	619,08㎡	瓦 庫	集落(平安時代)
177	C-102	南 小 泉	古城三丁目3-1, 3-5, 3-4	74,52㎡	立 会 い	集落跡(弥生~平安時代)
178	C-234	明 益 敷	六丁目字珠山南2番5分	101,560㎡	*	集落跡(平安時代)
179	C-301	富沢水田	富洲三丁目205-5	371,00㎡	立 会 い	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
180	C-104	郡 山	郡山一丁目11の3	59,81㎡	*	官衙跡(古墳(末期)~奈良時代)
181	C-301	富沢水田	長町南四丁目24-4	96,11㎡	*	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
182	C-104	郡 山	郡山三丁目36-4	17,92㎡	*	官衙跡(古墳(末期)~奈良時代)
183	C-267	先 登 町	大野田字6番1	1,678㎡	瓦 庫	集落跡(奈良~平安時代)
184	C-628	通町集	鹿野三丁目201-6	126,42㎡	立 会 い	集落(平安時代)
185	C-301	富沢水田	泉崎一丁目7の23	137,67㎡	*	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
186	C-102	南 小 泉	南小泉四丁目35-36	77,69㎡	*	集落跡(弥生~平安時代)
187	*	*	古城三丁目203-2	161,614㎡	*	*
188	C-444	内原三丁目5番集跡	内原三丁目418-16, 17 419-3, 6	90,12㎡	*	道路(平安時代)
189	C-301	富沢水田	長町南三丁目15-15	30,48㎡	*	生産跡(弥生~平安, 平安以降)
190	*	*	10-10	129,31㎡	*	*
191	*	*	富洲三丁目309-7	71,49㎡	*	*
192	C-446	五輪山集	東原三丁目22	1,680,00㎡	瓦 庫	集落(平安時代)

整理番号	遺跡名	所在地	郡区	調査面積	地 質	遺跡の性格
183	C-213	堀内町 堀内町丁目1150-1 1150-2	宅地遺構	257.20㎡	状	堀内跡(平安時代)
194	C-504	茂少崎城 長町字茂少崎46番地の105	住宅新築	108.51㎡	立 会	堀跡(中世)
195	C-272	河原新 土田町字西倉48-1 48-2	銀行新築	282.0㎡	状	遺物散布地(古墳、奈良、平安時代)
196	C-102	南小泉 遠見塚丁目361番25号	住宅新築	70.18㎡	立 会	堀内跡(弥生-平安時代)
197	C-401	堤町新築 堤町丁目114-74	共同住宅新築	50.72㎡	+	堀跡(平安時代)
198	C-135	浦ノ基 普照寺跡ノ基5-3	住宅新築	99.925㎡	+	堀内跡(古墳-中世)
199	C-501	仙舟城 川内1番地の1	住宅解体調査	26.8㎡	状	堀跡(南北朝-江戸時代)
200	C-180	山田上ノ台 山田上ノ台町6番地の跡地 跡地3216㎡	供養工事	60.00㎡	+	堀内跡(新、旧堀内跡、縄文、平安、江戸)
201	C-159	山田上ノ台 山田上ノ台町34-1 17 3	住宅建築	65㎡	立 会	堀内跡(新、旧堀内跡、縄文、平安、江戸)
202	C-205	泉崎跡 泉崎丁目14-10	事務所新築	33.54㎡	+	堀内跡(縄文、古墳、平安、近世)
203	C-301	高沢水田 長町字四丁目18-12	共同住宅新築	136.02㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)
204	C-106	上野 富田字上野西41-15	住宅新築	382.90㎡	+	堀内跡(縄文、奈良、平安)
205	C-102	南小泉 遠見塚丁目361番25号	住宅新築	42㎡	+	堀内跡(弥生-平安時代)
206	C-294	森妻上 福安字崎巻一番地 6	共同住宅新築	138.72㎡	+	堀内跡(平安時代)
207	C-301	高沢水田 長町丁目213番13	個人住宅新築	90.00㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)
208	C-135	浦ノ基 普照寺跡ノ基53-5	+	86.12㎡	+	堀内跡(古墳-中世)
209	C-301	高沢水田 長町南四丁目27-3	店舗付住宅建築	132.77㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)
210	C-215	伊 野 川 外野字伊野40-1	住宅建築	15㎡	+	遺物散布地
211	C-104	郡山 郡山三丁目35-77	住宅増築	157.80㎡	+	古堀跡(古墳(末期)-奈良時代)
212	C-135	浦ノ基 普照寺跡ノ基101-5	住宅建築	56.31㎡	+	堀内跡(古墳-中世)
213	+	+	+	112.62㎡	+	+
214	+	+	+	112.62㎡	+	+
215	C-301	高沢水田 泉崎丁目29-14	住宅建築	23.00㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)
216	C-501	仙舟城 川内倉冠無番地 空母住宅71	個人住宅新築	63.17㎡	+	堀跡(南北朝-江戸時代)
217	C-113	安久東 西小泉町丁目2番1号	店舗建物の造成工事	60㎡	+	堀内跡(弥生、古墳(初期)奈良、平安、中世、近世)
218	C-429	六田東 地町丁目21-1	住宅増築	55.28㎡	+	堀跡(平安時代?)
219	C-225	高 野 町 堀内町丁目21255、1253番地	住宅増築	132.40㎡	+	堀内跡(平安時代)
220	C-301	高沢水田 長町丁目222-1	共同住宅新築	133.77㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)
221	C-222	堀 堀内字高塚3番地4	住宅増築	5.29㎡	+	堀内跡(古墳、奈良、平安時代)
222	C-018	土ノ塚古墳 大野川字土ノ塚7-1 8-1 8-3 9-1 10-1 11-1	堀跡付住宅建築	100㎡	状	堀内跡(古墳時代)
223	C-102	南小泉 遠見塚丁目327 15 27 2	共同住宅新築	100㎡	立 会	堀内跡(弥生-平安時代)
224	C-426	奥山新 花崎字北倉林11番地末	堀の新設	302.5㎡	+	水堀跡(江戸、明治)
225	C-211	川原東 茂高川原東10番1	自家用納骨所建設	455.22㎡	状	遺物散布地(縄文時代)
226	C-144B	川内通第 上ノ台町410 318-1	移転家の建設	1.400㎡	立 会	遺物散布地(平安時代)
227	C-304	郡山止 郡山丁目302-4 外	防犯ネット設置	234.8㎡	+	古堀跡(古墳(末期)-奈良時代)
228	C-302	南小泉 山崎三丁目30-1	店舗新築	380.00㎡	+	堀内跡(弥生-平安時代)
229	C-501	仙舟城 川内九割宅286号	解体新築	42.44㎡	+	堀跡(南北朝-江戸時代)
230	C-014	伊 野 野 西中町丁目177 181-1	倉庫新築	133.59㎡	+	古堀(古墳(後期))
231	C-106	上野 富田字上野西42-16	住宅新築	42.00㎡	+	堀内跡(縄文、奈良、平安)
232	C-228	外ノ門 外ノ門丁	排水管設置	105㎡	状	堀内跡(縄文、弥生、平安時代)
233	C-011	仙舟城 川内	+	272㎡	+	堀跡(南北朝-平安時代)
234	C-102	南小泉 遠見塚丁目35-6	排水設備設置	59.225㎡	立 会	堀内跡(弥生-平安時代)
235	C-301	高沢水田 長町丁目212-3	住宅新築	101.85㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)
236	C-135	浦ノ基 普照寺跡ノ基134 7 110-1	管理棟兼住宅新築	69.41㎡	+	堀内跡(古墳-中世)
237	C-301	高沢水田 長町南四丁目20-1	自転車置き場の建築	27.25㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)
238	C-135	浦ノ基 普照寺跡ノ基地内	新築工事	350.00㎡	+	堀内跡(古墳-中世)
239	C-294	山田池田遺跡 山田字町崎7-3 池5番	倉庫新築	120.00㎡	+	堀内跡(奈良時代)
240	C-102	南小泉 遠見塚丁目222-41	個人住宅建築	210.03㎡	+	堀内跡(弥生-平安時代)
241	C-301	高沢水田 長町町丁目25-13	専用住宅2棟建築	72.86㎡	+	生茂跡(弥生-平安、平安以降)

都庁 番号	道 路 名	所 在 地	原 型	相 対 面 積	地 区	造 拜 の 性 質	
242	C-401	堤 町 京 跡	堤町一丁目101-102	住 宅 新 築	102.00㎡	立 会 い	墓 葬 (平安時代)
243	C-286	南 ノ 東	宮内省東の中5番地4	物 置 新 築	63.70㎡	*	墓 葬 跡 (弥生、平安)
244	C-419	陸奥国分寺	木ノ下丁103-38	解 体 新 築	100.00㎡	*	古 瓦 跡 (平安時代)
245	C-105	上 野	野取(字)新田町13 7 13-8	住 宅 解 体 新 築	113.77㎡	*	墓 葬 跡 (彌文、奈良、平安)
246	C-408	神南社京跡	併江17	兵 隊 住 宅 新 築	1,056.13㎡	奉 前	墓 葬 (奈良～平安時代)
247	C-102	南 小 泉	渡見塚一丁目1-4	店 舗 新 築	76.75㎡	立 会 い	墓 葬 跡 (弥生～平安時代)
248	*	*	南小泉字伊保屋敷前-21番地東	上 水 配 水 管 布 設	64.76㎡	*	*
249	*	*	南小泉ノ坪30-1墓地	*	171.50㎡	*	*
250	C-223	港 田 町	港田町二丁目1126-1、2	集合住宅建築	1,061.28㎡	試 掘	墓 葬 跡 (平安時代)
251	C-104	都 山	都山二丁目9-15	都 市 ガ ス 管 埋 設 工 事	5.73㎡	立 会 い	古 瓦 跡 (古墳(未知)～奈良時代)
252	C-124	堀 ノ 瀬	河内宮字瀬ノ瀬7番地内	近 水 軍 布 設 工 事	685.5㎡	試 掘	墓 葬 跡 (彌文、古墳、平安時代)
253	C-225	鶴 寺 丁	福富守田中前-番2-1 地3第	古 蹟 新 築	650.00㎡	立 会 い	墓 葬 跡 (平安時代)
254	C-224	鶴 寺 丁	福富町三丁目9	古 蹟 付 住 宅 住 居	207.35㎡	*	墓 葬 跡 (平安時代)
255	C-501	仙 心 城	川内宮跡地番地	住 宅 解 体 新 築	29.97㎡	*	城 跡 跡 (南北朝～江戸時代)
256	C-233	山 口	轟沢一丁目1-10	住 宅 建 築	23.6㎡	*	墓 葬 跡 (彌文～中世)
257	C-104	都 山	都山一丁目195-1	古 蹟 付 住 宅 新 築	150.00㎡	奉 前	古 蹟 跡 (古墳(未知)～奈良時代)
258	C-301	富 沢 水 田	長町南三丁目22-2	住 宅 建 築	10.76㎡	立 会 い	古 瓦 跡 (弥生～平安、平安以降)
259	C-101	轟 沢	西沢東二丁目324-2	古 蹟 新 築	20.42㎡	*	古 蹟 跡 (彌文、弥生、古墳、奈良、平安)
260	C-223	港 田 町	福田町二丁目1138-1	住 宅 新 築	67.18㎡	*	墓 葬 跡 (平安時代)
261	C-104	都 山	都山一丁目10-1	住 宅 解 体 新 築	389.42㎡	*	古 蹟 跡 (古墳(未知)～奈良時代)
262	*	*	都山五丁目12番14号光-8番15号東	市 道 補 修 工 事	89㎡	*	*
263	C-301	富 沢 水 田	轟 沢 一 丁 目 10-9	住 宅 新 築	122.90㎡	*	古 瓦 跡 (弥生～平安、平安以降)
264	C-139	櫻 越	中山町七丁目216-10	古 蹟 付 住 宅 新 築	144.317㎡	*	遺 物 散 布 跡 (奈良、平安時代)
265	C-223	福 田 町	福田町二丁目1135、1136、1137	共 同 住 宅 新 築	302.1㎡	試 掘	墓 葬 跡 (平安時代)
266	C-501	仙 心 城	川内西原住宅第402号	解 体 新 築	98.64㎡	立 会 い	城 跡 跡 (南北朝～江戸時代)
267	C-301	富 沢 水 田	長町東二丁目219-4	住 宅 新 築	88.817㎡	*	古 瓦 跡 (弥生～平安、平安以降)
268	C-102	南 小 泉	古城二丁目208-7	解 体 新 築	84.24㎡	*	墓 葬 跡 (弥生～平安時代)
269	C-501	仙 心 城	川内西原住宅361号	*	51.49㎡	*	城 跡 跡 (南北朝～江戸時代)
270	C-301	富 沢 水 田	轟 沢 二 丁 目 8-3	病 院 新 築	397.78㎡	*	古 瓦 跡 (弥生～平安、平安以降)
271	C-202	泉 河 浦	轟 沢 一 丁 目 5-11	専 用 住 宅	140㎡	*	古 瓦 跡 (彌文、古墳、平安、近世)
272	C-105	西 谷 畑	都山二丁目1番一都山六丁目7番	舗 装 補 修 工 事	1,210㎡	*	墓 葬 跡 (彌文、弥生、古墳)
273	C-102	南 小 泉	渡見塚二丁目328-3 位4第	解 体 新 築	83.64㎡	*	墓 葬 跡 (弥生～平安時代)
274	C-234	明 塚 敷	六丁目字北地敷前5番1	倉 庫 新 築	420.50㎡	試 掘	墓 葬 跡 (平安時代)
275	C-301	富 沢 水 田	轟 沢 字 珍 理 前 17-3	共 同 住 宅 新 築	179.75㎡	立 会 い	古 瓦 跡 (弥生～平安、平安以降)
276	*	*	渡野三丁目214番4	住 宅 新 築	211.2㎡	奉 前	*
277	C-113	宮 久 東	西中田五丁目2-15	住 宅 建 築	1.92㎡	立 会 い	墓 葬 跡 (弥生、古墳(未知)～奈良、平安、近世)
278	C-135	海 ノ 葉	舟町字海ノ葉33-18	住 宅 新 築	55.14㎡	*	古 瓦 跡 (弥文～中世)
279	C-609	藤 井 社 内 庭	大野所字宮ノ3	住 宅 新 築	35.00㎡	*	古 蹟 (6世紀)
280	C-301	富 沢 水 田	渡野三丁目26-長町南四丁目2	電 気 ケ ー ブ ル 敷 設 と 工 事	49.4㎡	奉 前	古 瓦 跡 (弥生～平安、平安以降)
281	C-104	都 山	都山三丁目51-20	住 宅 新 築	50.02㎡	立 会 い	古 蹟 跡 (古墳(未知)～)
282	C-102	南 小 泉	古城二丁目33番1号	古 蹟 新 築	420.00㎡	*	墓 葬 跡 (弥生～平安時代)
283	C-501	仙 心 城	川内西原住宅408号	解 体 新 築	21.00㎡	*	城 跡 跡 (南北朝～江戸時代)
284	C-108	上 野	富田字上野東1番2 地1第	住 宅 新 築	228.03㎡	*	墓 葬 跡 (彌文、奈良、平安)
285	C-184	人 生 沢	新町字人生沢25-3	宅 地 建 設	41㎡	試 掘	墓 葬 跡 (平安時代)
286	C-223	福 田 町	福田町二丁目1106 地1第	住 宅 新 築	69.56㎡	立 会 い	墓 葬 跡 (平安時代)
287	C-294	山 田 桑 原	山田字桑原7-3 地5第	開 発 用 道 室 増 築	195㎡	*	奈良遺構 (奈良時代)
288	C-037	定久園跡内庭	西中山四丁目7-1、2	宅 地 造 成	1,857.76㎡	奉 前	古 蹟 (古墳(未知)～奈良時代)
289	C-102	南 小 泉	南小泉字村東1-1	事務所新築	15.545㎡	立 会 い	墓 葬 跡 (弥生～平安時代)
290	C-421	泉 河 浦 東	南小泉字伊保屋敷下25-17	住 宅 新 築	79.49㎡	奉 前	奈良、平安朝の行政区域(平安時代)

II. 調査報告

調査要項

遺跡名	中田畑中遺跡	川添東遺跡	若林城跡	伊古田遺跡
所在地	仙台市袋原字小平5	仙台市茂庭川添東10-1	仙台市古城二丁目3-1	仙台市大野田字千刈田7-1
調査期間	昭和59年5月4～16日	8月21～27日, 10月5～6日	10月16～17日	10月25日～11月10日
調査面積	26㎡	59㎡	43㎡	273㎡
調査主体	仙 台 市 教 育 委 員 会			
調査担当	仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係			
担当職員	田中則和	田中	佐藤(隆), 田中	金森安孝・渡辺誠



遺跡位置図

中田畑中遺跡—第3次調査—

1. 調査に至る経過

仙台市袋原字畑中に所在するこの遺跡（仙台市文化財登録番号C-211）は、昭和57年7月1日～9月3日の第1次発掘調査によって、古墳時代前期、同後期の竪穴住居跡各1軒と平安時代の掘立柱建物跡4棟が検出されている。

昭和59年4月からの第2次発掘調査中に、これと隣接する畑中字小平5番地で宅地の造成工事が進んでいたが、これは同遺跡ときわめて近接していることから、造成計画中の道路敷の任意地点に3×3mの調査区を設定し、試掘調査を実施することとなった。その結果、土師器や須恵器を含む包含層が検出されるに及び、畑中遺跡はより東方へ広がりをもつことが判明した。そこで、土地所有者の佐藤龜治氏と協議を重ねその協力のもとで、道路が付設される部分の発掘調査を実施することとなったものである。

調査の方法は、道路付設部分を中心に3×8mの調査区を設定した。なお、道路敷設にかかわる埋設物は盛土内におさまること、造成工事を中断しての発掘調査であること等を考慮して調査深度をⅣ層上面の遺構確認をもってとどめることとした。

また、中田畑中遺跡の「立地と環境」については、「中田畑中遺跡第2次発掘調査報告書」〔仙台市文化財調査報告書第78集〕—昭60—を参照されたい。

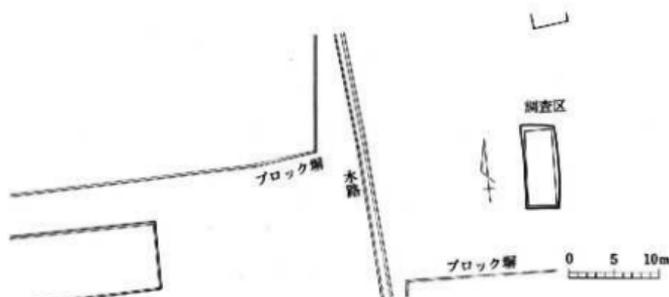
2. 発掘調査の概要

(1) 基本層位

Ⅰ層は基本的にはa～f層に細分されるが、現在の耕作土で、層厚は40cm前後である。Ⅱ層は黒褐色シルト層で、平安時代以降のものである。一部天地返しによる凹形の攪乱も観察できる。遺存状況の良好な所で層厚は20cm前後である。Ⅲ層はa・bに細分され、Ⅲa層は、にぶい黄褐色シルト層で平安時代以降と考えられ、層厚は20～30cm。この層の上面から、溝3条、ビット2個が確認されている。Ⅲb層は灰色味を帯びた、にぶい黄褐色粘土質シルトでありこの上面で、平安時代の竪穴住居跡、竪穴状遺構がそれぞれ確認されている。層厚は約25cmである。Ⅳ層は黒褐色粘土質シルトで、層厚は10cm前後である。この層の上面からは縦横に走る、溝状遺構が確認されている。

(2) 発見された遺構と遺物

Ⅲa層上面検出の遺構と遺物 遺構は溝跡4条とビット10個が検出されている。1号溝跡はN-120°-Eの方向をもち、4号溝跡を切っている。上幅は約100cm、下幅約80cm、深さ約40cmで、その断面形は逆台形を呈するものである。出土遺物としては、溝跡底面から土塵1点と溝跡堆積土から土師器、須恵器の小破片が少量出土している。2号溝跡は上幅20～45cm、下



第1図 調査区位置図



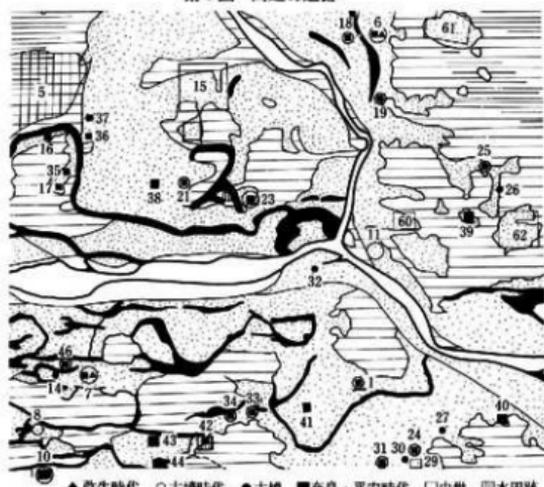
第2図 遺跡位置図

幅18～42cm、深さ2～3cmと小規模である。出土遺物としては、1号溝跡同様に土師器や須恵器の小破片が若干出土している。1・2号溝跡いずれの土師器（坏片）も製作にロクロが使用されている。下層検出の1号住居跡の年代である9世紀末葉から10世紀以降のものと考えられる。3号溝跡は東西方向に走るもので、深さ73cm以上の規模をもつ。堆積層の下部はグライ化されている。堆積土1～4層からは、縄文～弥生時代のものと考えられる凹石1点と江戸時代末葉以降の相馬産を主体とする施釉陶器片が出土している。4号溝跡はN-4°-Eの方向をもち、前述の1号溝跡に切られている。その規模は上幅約50cm、下幅約35cm、深さ5～8cmとなっていて、その断面形状は皿状を呈している。なお地主の昭和初年に掘き出したとの証言が参考になる。

次に発見されたピット群について記述することにする。確認されたピットは形状、規模が多様であり、なかでも直径20cm前後のものが多い。これらピット群のピット1からは土師器の甕、



第3図 周辺の遺跡



▲外生時代 ○古墳時代 ●古墳 ■奈良・平安時代 □中世 □水田跡

第4図 地形図

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	中田畑中遺跡	古墳・奈良・平安	33	前沖北遺跡	古墳・奈良・平安
2	門野山開遺跡	縄文(後・晩期)・弥生・平安	34	前沖中遺跡	古墳・奈良・平安
3	大野田遺跡	縄文(後期)・弥生(中期)	35	北園敷遺跡	奈良・平安
4	西台畑遺跡	弥生(中期)・古墳	36	新田遺跡	奈良・平安
5	富沢水田遺跡	弥生・平安・平安以降	37	長町六丁目遺跡	奈良・平安
6	中欄河遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	38	の場遺跡	古墳・奈良・平安
7	安久東遺跡	弥生・古墳(前期)・奈良 平安・中世・近世Ⅰ	39	高田遺跡	奈良・平安
8	菜遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	40	昭和北遺跡	奈良・平安
9	沢目遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	41	内手遺跡	奈良・平安
10	清水遺跡	弥生～中世	42	後河原遺跡	奈良・平安
11	日迎遺跡	古墳(中期)	43	中田北遺跡	奈良・平安
12	天神社古墳	古墳(中期)	44	中田南遺跡	奈良・平安
13	下余田遺跡	古墳(中期)・奈良・平安	45	壇腰遺跡	奈良・平安
14	安久諏訪古墳	古墳(後期)	46	安久遺跡	奈良・平安
15	郡山遺跡	古墳(末期)～奈良(初期)	47	中北田遺跡	奈良・平安
16	袋東遺跡	古墳・平安	48	辻遺跡	奈良・平安
17	長町清水遺跡 (皿屋敷遺跡)	古墳?	49	泉塚・原遺跡	奈良・平安
18	砂押Ⅱ遺跡	古墳・奈良・平安	50	西田遺跡	奈良・平安
19	河原越遺跡	古墳・奈良・平安	51	八幡社古碑群	鎌倉(後期)
20	矢来遺跡	古墳・奈良・平安	52	郡山三丁目古碑群	鎌倉(後期)
21	籠ノ瀬遺跡	古墳・奈良・平安	53	長町駅裏古碑群	鎌倉(後期)
22	欠ノ上Ⅰ遺跡	古墳・奈良・平安	54	源筋社古碑群	鎌倉(後期)
23	欠ノ上Ⅱ遺跡	古墳・奈良・平安	55	宅地古碑群	鎌倉(後期)
24	欠ノ上Ⅲ遺跡	古墳・奈良・平安	56	北目古碑群	鎌倉(後期)
25	上屋敷遺跡	古墳・奈良・平安	57	穴田東古碑群	鎌倉(後期)
26	梅塚古墳	古墳	58	四郎丸館跡	鎌倉
27	城丸古墳	古墳	59	北目城跡	中世
28	戸ノ内Ⅰ遺跡	古墳・奈良・平安	60	日迎館跡	室町
29	戸ノ内Ⅱ遺跡	古墳・奈良・平安	61	神野城跡	中世
30	弁天岡古墳	古墳	62	今泉遺跡	中世
31	神明遺跡	古墳・奈良・平安	63	今泉城跡出土板碑	中世
32	大塚山古墳	古墳	64	落合観音堂古碑群	中世
			65	前田館跡(柿沼館)	中世
			66		

第1表 周辺の遺跡地名表

環の破片、この中には環の底部片、回転糸切り無調整のものが含まれている。また赤焼土器の破片が出土している。ピット2からは「蔦状圧痕」と呼ばれる特徴的な圧痕をもつ土師器の底部片が出土している(第8図)。このような圧痕をもつ土師器は、名取市清水遺跡、仙台市の沼原A、本遺跡の第2次調査、高清水町手取遺跡や泉市宮下遺跡白石市青木遺跡等々からも発見されていて9世紀前葉から10世紀中葉の年代幅がある。ピット2の年代については後述する1号住居跡の年代である9世紀末葉から10世紀前以降と考えられる。

Ⅲb層上面の遺構と遺物 発見された遺構は竪穴住居跡1軒と住居跡の可能性のある竪穴遺構2基である。その概略は次の通りである。竪穴住居跡は次のような状況である。

確認面：Ⅲb層上面

重複関係：1号溝(Ⅲa層上面で確認)に南側を破壊されている。

平面形：隅丸方形？

規模：南北3m前後。

方向：N-5°-E。(西壁ラインを基準)。

壁面：残存する壁面の最大高は23cmで直になっている。

床面：ほぼ平坦である。2時期が認められる。第1次床面の東南辺はかたくしまっている。上下の床面の比高は約8cm。

ピット：下位(古)の第1次床面でピット3個、上位面(新)の第2次床面でピット3個が検出された。そのうちピット2には焼土、炭化物が多量に混入しているのが特徴で、他のピットの堆積土は2層に近似する。

周溝：第2次床面で確認。北辺では一部周溝が途切れている。上幅30cm前後、下幅10cm前後である。

カマト：調査区内では未検出。

その他：第2次床面で検出された第1土壁は残存径が約100cm、底径84cm、深さ12cmの規模をもつ。断面形は皿状を呈す。堆積土は3層に類似する。

堆積土：第2次床面には1-2層が堆積し、壁ぎわの周溝には3層が、第1次床面には4層が堆積している。

掘り方：なし。第1次床面には住居の「掘り方」面の可能性がないわけでもないが、床面がかたくしまっていること、土器、鉄滓などが面的に分布することから床面とした。

遺物：堆積土各層より土師器環、甕、須恵器の環、甕、壺そして赤焼土器環がいずれも破片で出土。第2次床面より土師器環、甕、須恵器環、赤焼土器環そして棒状鉄製品が、第1次床面より土師器環、甕がいずれも破片で出土している。第

1次床面からは鉄滓が2点出土している。棒状鉄製品は長さ4.75cm、両端には一辺1～2mm前後のものがついている。しかし、錆化が激しく原形の詳細は不明である。

次に竪穴状遺構は、調査範囲はせまいために遺構の一部が検出されただけで、その規模、全体形状については不明な点が多い。直立ぎみの壁（1号竪穴状遺構の現存最大高は約14cm、2号のそれは約5cm）と平坦な底面をもつ点で住居跡の可能性がある。両遺構からは土師器細片が数点出土している。

その他の遺物 竪穴住居跡の第1次床面から2点、同第1号土壌から1点の鉄滓と同住居跡の確認面からはが壁片と考えられるものが出土している。鉄滓は長軸で1～6cmのもので、色調はにぶい赤褐色（5 YR 7/6～8/6）で粗い凝結面をもつものと、黒色ぎみで光沢があり、飾状の平滑面をもち、さらに小さな気孔を密にもつものの2種類がある。若干遺構との関係からみても、竪穴住居跡を覆う堆積土の中には多量の焼土や炭化物は認められてはいるものの、住居跡床面には焼面をもつ落ち込みは確認されなかった。

3. ま と め

本遺跡の今回の調査において発見された遺構は、溝跡、ピット群、竪穴住居跡そして遺構などである。調査面積が3×8mというせまい範囲の中での調査ということもあって、遺構の全容を明らかににはできなかった。

1号竪穴住居跡の年代と出土赤焼土器の問題点

年代決定資料はきわめて少数である。第1次床面および堆積土4層の土師器小片は製作にロクロを使用していることから表杉ノ入式でありほぼ平安時代という幅でしかおさえられない。第2次床面の第1土壌及び堆積土3層からは赤焼土器片1点が出土している。回転切離し後無調整のもので口縁部がわずかに外反し内湾する体部をもつ。内面の体部と底部の境は比較的明瞭で底部内面は中央に向かい傾斜し器厚は薄くなる。法量は復元値で口径14.8cm、底径5.6cm、器高5.0cmを計る。口径対底径比は口径を1として0.38である。なお赤焼土器小皿（片）はこの住居跡から出土していない。このような特徴をもつ赤焼土器片の年代をまず検討する。年代の下限を示すものは仙台市安久東遺跡2号住居跡出土のもので堆積土出土の灰胎陶器から10世紀後半を上限と考えられている¹¹。年代の上限を示すものに仙台市南小泉遺跡（青葉女子学園予定地）1号住居跡出土のものがある。共存する須恵器環に注目する。仙台市安養寺中園窯で共存する宝相華文軒丸瓦、細糸蓮華文軒丸瓦、尙車文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦の組合せは瓦が貞観11(869)年の陸奥国大地震による被害の修復に使われた可能性が高いことから9世紀後半の年代が与えられる¹²。前述の南小泉遺跡の須恵器環の組合せは回転糸切り無調整が多く、削り調整のものが少ないという点で安養寺中園窯例と共通するが口径対底径比は1:0.34～46（計11点）で前者の

1:0.43~58(計8点)より明らかに底径比が減少している。このことから南小泉遺跡出土の赤焼土器環は9世紀末葉から10世紀前半の年代が与えられる。さて更に、本遺跡住居跡出土の赤焼土器について器形、器高に注目してみると南小泉遺跡例に近い。又整理途中であるが中田畑中遺跡第2次調査1号住居跡ピット2出土のものにも近い。この住居跡では堆積土に10世紀前葉に降下したと考えられる灰白色火山灰が堆積していることも含め、本住居跡出土の赤焼土器環および住居跡の年代は9世紀後半から10世紀代であり10世紀前葉までにおさまる可能性が高い。なお赤焼土器環は色麻町色麻古墳群甕穴住居跡出土例⁽⁴⁾以北を除いて(1)器高4.7~5cmで口縁部から体部にかけて弧状に内湾し口縁部の外反が弱いものを含む→(2)器高3~4.5cmで体部内湾し口縁部が外反するものが多い。更に(1)では出土量が少なく共伴する須恵器環をしのごことはなく(2)では須恵器環の量は若干で赤焼土器環の量が増大する傾向があるのではないかという問題提起を今後の検討課題としておきたい。(早坂春一・田中則和)

註(1)佐々木和博『鹿島竹之内遺跡』1984 宮城県教育委員会

(2)渡部弘美『南小泉遺跡—青葉女子学園移転新営工事地内調査報告』1983 仙台市教育委員会

(3)結城慎一他『陸奥国宮内遺跡群』1973、なお結城氏より共伴関係の確認を得た。

蓮藤秋輝他『多賀城跡政庁跡本文編』1982 宮城県教育委員会 多賀城跡調査研究所

(4)古川一明『宮城県営園場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書』1984 宮城県教育委員会



第Ⅲa層上面

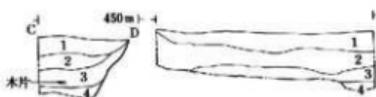


Ⅲa層上面

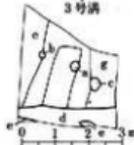
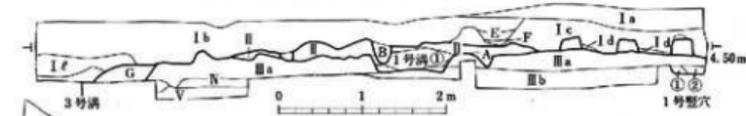


木片

大別	土色	土性	備考
1層	暗褐色(10Y R 5/2)	シルト	
2層	黒褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
3層	暗褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	編み(10Y R 5/2)粘土質シルトを塊に含む。



大別	土色	土性	備考
1層	暗褐色(10Y R 5/2)	シルト	炭化物を少量含む。
2層	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト質粘土	酸化鉄をブロック状、炭化物を塊状に少量含む。
3層	黒褐色(10Y R 5/2)	粘土	酸化鉄をブロック状、炭化物を塊状に含む。
4層	オリーブ灰色(7.5Y 5/2)	粘土	



西側断面

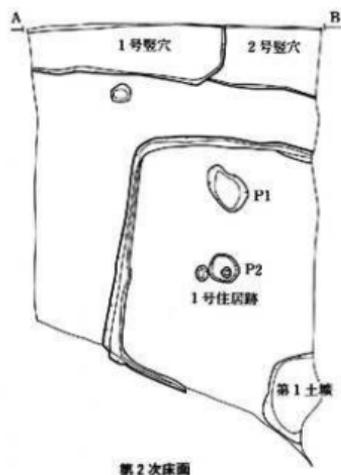


M層上面確認(木掘)

土色・土性
a におい黄褐色シルト質粘土
b におい黄褐色粘土質シルト
c におい黄褐色粘土質シルト
d 褐色粘土質シルト
e 暗褐色粘土質シルト
f 暗褐色粘土質シルト
g 暗褐色粘土質シルト
(木よりやや暗い)

大別	細別	土色	土性	備考
I層	a	におい黄褐色(10Y R 5/2)	シルト	しまりなくよみかたしている。
	b	におい黄褐色(10Y R 5/2)	シルト	しまりあり
	c	暗褐色(10Y R 5/2)	シルト	
	d	暗褐色(10Y R 5/2)	シルト	押つぶれている。
	e	におい黄褐色(10Y R 5/2)	シルト	5mm-1cmの不等長角形の炭化物を塊状に含む。
II層	a	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト	編みの部分に、部分的に粘土が及ばず残されたところ。
	b	におい黄褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	酸化鉄を帯びる。酸化鉄質を少量含む。
III層	a	黒褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
V層	a	黒褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
A層	a	暗褐色(10Y R 5/2)	シルト	
B層	a	におい黄褐色(10Y R 5/2)	シルト	
C層	a	におい黄褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
D層	a	におい黄褐色(10Y R 5/2)	シルト	I層に黒目層のブロックを含む。
E層	a	におい黄褐色(10Y R 5/2)	シルト	I層に炭化物を少量含む。
F層	a	におい黄褐色(10Y R 5/2)	シルト	I層に炭化物を多量に含む。
G層	a	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト	におい黄褐色(10Y R 5/2)粘土質シルトのブロックを含む。
	b	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト	
1号溝	①	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト	
	②	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト	におい黄褐色(10Y R 5/2)粘土質シルトが混入する。
3号溝	a	黒褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
	b	黒褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
1号壁穴	①	におい黄褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
	②	におい黄褐色(10Y R 5/2)	粘土質シルト	
2号壁穴	a	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト	
	b	黒褐色(10Y R 5/2)	シルト	

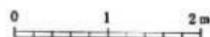
第5図 Ⅲa層、M層上面の構造



第2次床面



第1次床面



大別	上	色	土 性	備 考
1 層	暗	褐色 (10Y R 5/)	シルト	炭化物少量含む。
2 層	暗	褐色 (10Y R 5/)	シルト	炭化物少量含む。
3 層	(C, 5Y) 黄褐色 (10Y R 5/)		シルト	炭素
4 層	(C, 5Y) 黄褐色 (10Y R 5/)		粘土質シルト	

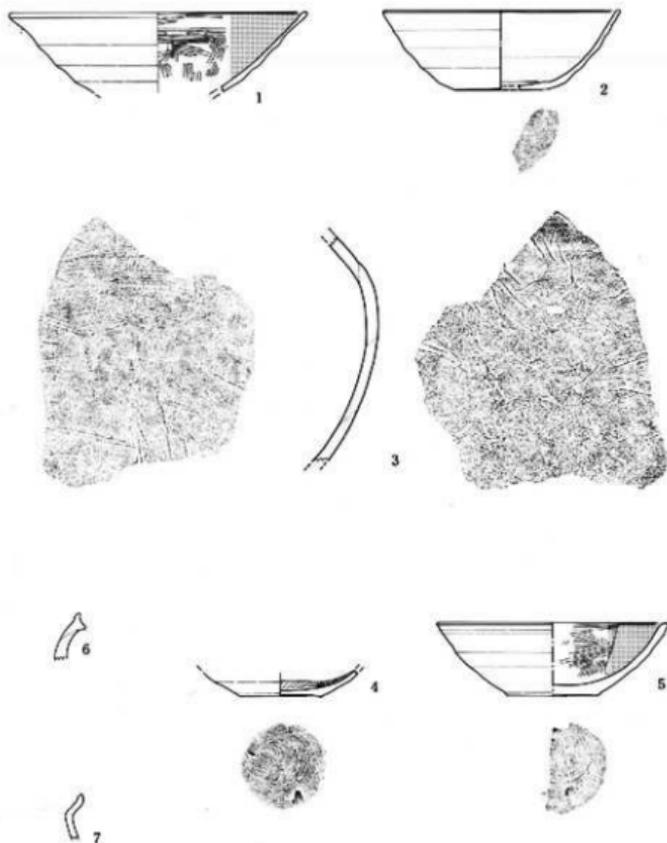


第2次床面 土器出土状況



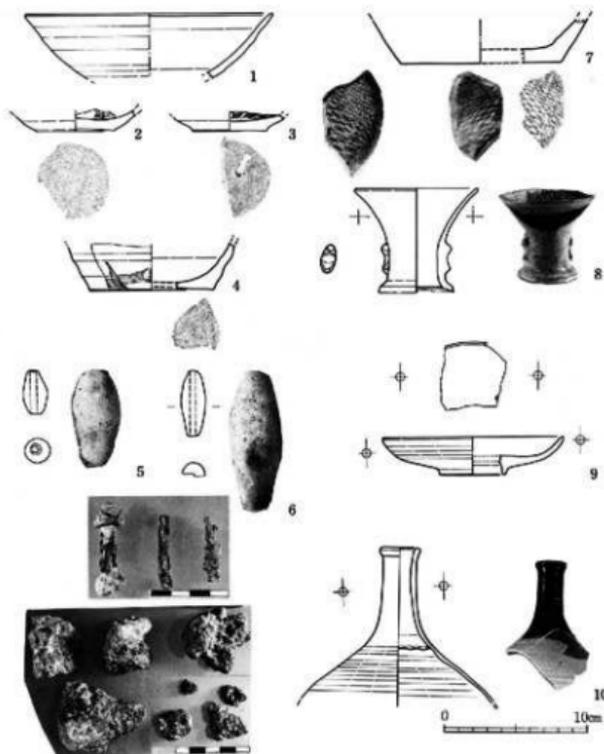
第1次床面

第6図 III b 層上面の遺構 (1号住居跡など)



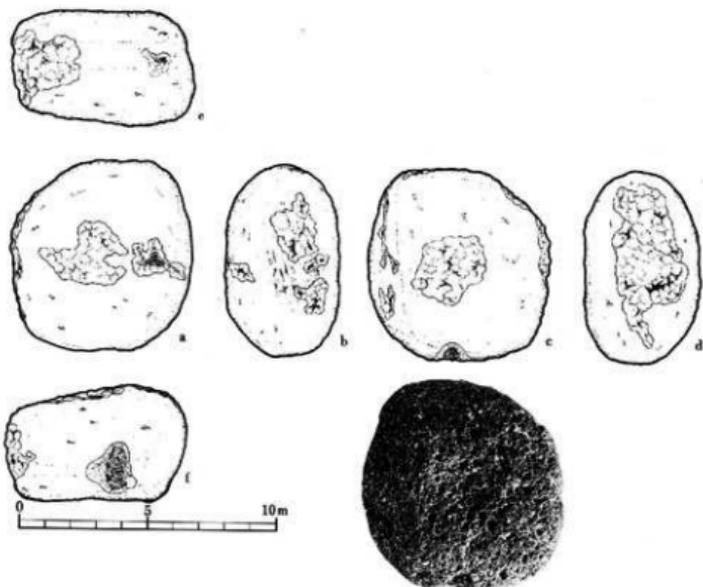
No.	種別	器型	出土状況	表寸	口径	底径	器高	色調	ロクロからの のり跡	外面調整	内面調整	備考
1	土師器	鉢	1号住居跡 埋土4層	口縁一部部 18.7cm	—	—	(5.0)cm	10Y R 4 所産色	—	ロクロナデ	ヘラミダキ	内面黒色処理。縁にヘラミダキ跡。 底方向ヘラミダキ。
2	赤褐色土器	鉢	1号住居跡3 層土1土層	口縁一部部 14.8cm	5.6cm	5.0cm	10Y R 4 灰白色	同転赤褐色	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
3	黒褐色	片	1号住居跡 P0.3灰土層	片断	—	—	5 Y R 灰色	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	粗いナデ
4	黒褐色	壺小壺	1号住居跡 埋土2層	口縁	—	—	2.5 Y 5 黄褐色	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
5	土師器	鉢	1号住居跡 埋土2層	底部	—	5.2cm	(1.5)cm	10Y R 4 灰黄褐色	同転赤褐色	ロクロナデ	ヘラミダキ	内面黒色処理で敷射状ヘラミダキ。
6	土師器	鉢	1号住居跡 埋土1層	口縁一部部	14.4cm	5.6cm	4.6cm	10Y R 4 灰黄褐色	同転赤褐色	ロクロナデ	ヘラミダキ	内面黒色処理。
7	土師器	壺	1号住居跡 埋土1層	口縁	—	—	10Y R 4 にみ黄褐色	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	

第7図 1号住居跡の遺物

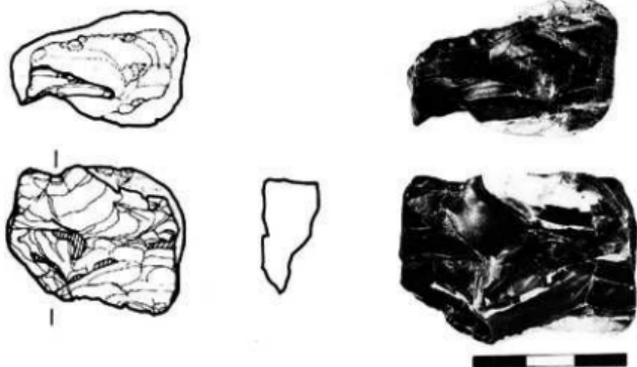


No.	種別	形状	出土状況	通径	口径	底径	器高	色調	ロクロからの 造り跡	外面調整	内面調整	備考
1	赤褐色土器	杯	Ⅲb層上面 口縁-体部	17.4cm	—	(4.5) cm	10Y R 5/6 濃黄褐色	—	—	外面調整	内面調整	—
2	土器	杯	Ⅲb層上面 底部	—	5.4cm	(1.5) cm	2.5Y 7/6 黄褐色	回転跡有り	ロクロナデ	ヘラミダシ	—	内面黄色沈着。
3	土器	杯	Ⅲb層上面 底部	—	5.3cm	(1.5) cm	2.5Y 7/6 黄褐色	回転跡有り	ロクロナデ	ヘラミダシ	—	内面黄色沈着。横穴ヘラミダシ後、 放射状ヘラミダシ。
4	土器	雙の壺	Ⅲb層上面 底部	—	8.7cm	(3.3) cm	7.5Y 8/6 黄褐色 鈍い黄色	回転跡有り	ロクロナデ	ヘラミダシ	—	—
5	土器	壺	Ⅲb層上面 —	—	—	—	2.5Y 7/6 黄褐色	—	—	—	—	長さ3.05cm。最大径約1.7cm。
6	土器	—	1号溝断面 —	—	—	—	10Y R 5/6 黄褐色	—	—	—	—	長さ4.6cm。最大径(厚)1.60cm。
7	土器	雙の壺	Ⅲa層上面 ビット2	—	11.5cm	(3.1) cm	7.5Y 8/6 黄褐色 鈍い黄色	厚成圧痕	無いナデ?	無いナデ?	—	輪縁のみ。内外面調整している。
8	陶器	壺	3号溝:Ⅲa層上面	口径	8.7cm	—	(7.4) cm	—	—	—	—	—
9	陶器	皿	3号溝:赤褐色土3層	口径-底径	12.7cm	4.7cm	2.65cm	—	—	—	—	粗圧痕。
10	陶器	椀	3号溝:赤褐色土1.2層	口径-体部	2.9cm	—	(10.6) cm	—	—	—	—	粗圧痕。

第8図 Ⅲb層上面、1号溝、3号溝、ビット2の遺物



出土位置	種類	長さ (cm)	厚さ (cm)	石材	使用痕	表面	裏面	上端	下端	右側面	左側面
3号溝		7.4	4.1		磨	—	—	—	—	○磨痕(長軸方向) 黒褐色IQYR及びL黄赤	—
埴橋土1層	閃石	幅 (cm)	重量 (g)	滑岩	敲打痕(平)	—	—	—	—	—	—
		7.1	235.0		敲打痕(凹)	○(底状)	○(底状)				○
					凹	△			○		



層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	製	考
埴橋土1層	石 槌	4.9	4.0	1.5	42.5	ナマコト	敲打削磨?	

第9圖 石 器

1号住居跡・Ⅲ層上面破片集計表

種別	部位	器 形 類 型		所 出 層		1号土境(地)	4	3	2	1	Ⅲ層上面	計
		外	内	1次	2次							
上	口	ロクロ	ミガキ(黒色)	2	2	5	3				17	
	体	ロクロ	ミガキ(黒色)				7		8		9	
	底	回転糸切(漆)	ミガキ(黒色)						2		3	
	底	ロクロ	ミガキ(黒色)								①	①
土	底	回転糸切(漆)	ミガキ(黒色)								①	
	口	ロクロ	ロクロ				1				1	
	口	ロクロ	ロクロ	3			3		2		1	
	体	ロクロ	ナデ			1			1			
	体	ケズリ	ロクロ	3	2		3				4	
	底	ケズリ	ナデ	①	1				1		4	①
土	底	刷毛目	ナデ			1						
	底	回転糸切(漆)									1	
	口	ロクロ	ロクロ		1		1				2	
	体	ロクロ	ロクロ		2		1				2	
土	底	半打明き	黒て目						2			
	底	ケズリ	ナデ				1					
土	底	ロクロ	ロクロ			②		①			①	
	底	ロクロ	ロクロ			4			1			
土	底			2							3	(伊勢川1)

○—○ 注接合関係

3号溝

種別	生産地	器形	点数	3号溝		
				1層	2層	4層
土	相	鏡	1	1		
		仏花瓶	1			1
		茶利	1	①—①		
	器	小 壺	1	1		
		出ろく	1	1		
		ていのみ	1	1		
器	鉢	1	1			
	不 明	1	1			
土	不明	磁 器	1	1		
		煎 豆	2	1	1	
計			11	9	2	

第3表 破片集計表

中田畑中遺跡(3次) 1号住居跡ビット2堆積土サンプル調査結果

東北大学農学部 星川 清 親

1985年2月16日に受領したビニール袋入り約1kgの土の中から、約300gのサンプルを無作為にとり出し、これを水中に溶解しながら、混入している植物遺体を調べた。

1. その結果8粒の玄米炭化物が見出された。いずれも表部の損傷がいちじるしく(写真)、焼けた様子がうかがわれた。なお、8粒中の1粒(写真下段最右)は玄米ではない可能性が強く、また他の食用穀物とも認められない。雑草種子であるかもしれない。
2. これら玄米は無秩序に混入しており、住居の床面に落ちた食糧とした米が、床の上や穴にゴミとしてたまったものであると思われる。焼けている理由は、焼米として食用にしたものか、住居の火災により焼けたものかは判別できない。



川添東遺跡

調査要項

仙台市登録番号 C-121

期 日 試掘調査 昭和59年8月21日～27日

本 調 査 昭和59年10月5～6日

所在地 仙台市茂庭川添東10-1

対象面積 240㎡

調査面積 59㎡

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 社会教育課文化財調査係 田中則和、波辺誠、及川格

調査参加 斎藤信次、阿部祐二、庄子信広

調査協力 西本景淳、赤石砕石株式会社、東京タツノ株式会社

1. 遺跡の立地と歴史的環境（第1図）

川添東遺跡は茂庭の市街地から国道286号線西約500mに位置している。地形的には名取川北岸にあり、名取川低位段丘の上段、仙台市科学館発行の地形区分図による仙台上町段丘（標高77m前後）上に立地している。遺跡の範囲は、微地形の観察から、南側は名取川急崖に面し、西を小沢谷、東を亀ヶ森を中心とする丘陵麓に画された、東西約200m、南北約100mの広がりの中に包蔵されている。

遺跡を中心とする周辺の歴史的環境は、名取川南岸の河岸段丘には砂田遺跡（縄文早期）、内城Ⅰ・Ⅱ（縄文）、舟窪遺跡（縄文）、大苗遺跡（縄文・弥生）、相ノ原遺跡（縄文後期）、青木沢A・B遺跡（縄文）そして大貝中・下遺跡（縄文中・晩）や塩ノ瀬遺跡（縄文）、また、北岸には中谷地南、舟木南、小塚西の各遺跡（縄文）や茂庭の河谷盆地縁にも、新組遺跡、門野山団（縄文後・晩・弥生）、峯岸遺跡（縄文後期）など多くの遺跡が分布していて、ここ名取川の中流に展開する河岸段丘には縄文時代各期（早・前・中・後・晩）の遺跡群が営まれた、市内でも稀有の縄文遺跡散布地帯となっている。当川添東遺跡もこの遺跡群の中にあって、縄文早・前・中・後・晩の各期が複合する遺跡として古くから知られていたところである。

2. 発掘調査の成果

この調査は緊急調査であったため、Ⅰ～Ⅵ層上面までは平面的な調査を実施したが、Ⅵ層以下Ⅺ層までは断面観察に留めざるを得なかったことを付記しておく。

遺跡の基本層位

I層からIIIa層は、近年の重機械による、西方向からの再堆積層から成っていて、この層の中には縄文時代早・前・後・晩の各期の遺物が含まれていた。IIIa層は暗褐色のシルト質で、摩滅しながらも加工痕が観察できる礫石器らしいもの1点が出土している。IV層は黄褐色の砂質シルトである。これより以下は、砂礫、砂質シルト、シルト質砂層となっていて、VI～IX層はとくに水の作用による堆積層ではないかと考えられる。

遺構と遺物

遺構としては、明確にはIIIb層上面で検出された溝跡1条だけである。この溝跡はN-88°-Wでほぼ磁北に直交する方向で確認されている。溝跡の形状は、上端の幅が最大値で約110cm下端幅平均で約25cm、深さ約50cmで、その断面形状は明瞭な逆台形を呈している。溝跡の堆積土の中から、縄文時代早期末葉の土器片1点と前期以降の土器片1点が出土した。溝跡の年代については不明である。この他、IV層上面で凹状の落ち込みを確認したが（これを黄褐色の砂から成るレンズ状の堆積層=IVb層）この面に接するIVa層とIVc層は砂質層から成っていることから、激しい水の流れによってできた、自然の溝状の凹みであろうと考えられるものである。

出土遺物としては、縄文土器の破片10数点と石器7点である。縄文土器はすべて破片であり、その器形や形状については不明のものばかりである。しかし、その施文の特徴から、①内外面ともに条痕が施されているもの、②羽状縄文の施文があるもの、③磨消縄文が施されているもの、④横位LR縄文+綾絡文のもの等に大別はできる。以下、出土遺物について若干の記述を加えておく。

①は内外面に条痕のあるもの。これは、いわゆる「条痕土器」と呼称される縄文早期末葉土器で、総数11片が出土している。すべて細片であるが、胎土にはすべて繊維を含んでいて、繊維土器といわれるもので、一般的には素山2式⁽¹⁾といわれる特徴をもつものである。

②は、摩耗した小破片で結束状況は若干不明ではあるが、胎土に繊維を含む羽状縄文が施文されているものである。こうした土器形式は、縄文早期でも最も末葉に当るか、もしくは前期前半に位置づけられているが、内面に「磨き」が施される特徴をもつことから、諸説はあるが、前期前半に位置づけられている上川名II式⁽²⁾、大木I～II式⁽³⁾のいずれかに属すると考えられるものである。

③は、磨消技法が完全ではない特徴をもつもので、縄文後期前半に属するものである。

④は、小破片で詳細については不明な点が多いが、綾絡文が横位から斜位の施文と考えられるもので、しかも薄手の繊維を含まない胎土である特徴をもつ。したがって、晚期もしくは大木7a式期の可能性をもつものと考えられる。

石器に剥片及び剝片を素材とする石器であるスクレイパー、二次加工ある剝片がある。礫を

素材とする石器（第13図13）は新しい破損面をもち、最も広い平坦面に敲打痕？による皿状凹みの集合により凹部が形成される、いわゆる凹石である。

この他図示しなかったⅢb層出土の礫を素材とする石器は剝離面が5面観察されるが、全体的に磨滅が認められる。

以上が調査の概要である。これらの緊急調査から、この川添東遺跡は、縄文時代の全期にわたって営まれた、縄文時代の複合遺跡であることが確認された。

（田中則和・早坂春一）



No	遺跡名	段丘名	年 代
1	川添東	上町+中町	縄文(早・前・中・後・晩期)
2	大貝下	台の原	縄文(中期)
3	青木沢	上町	縄文
4	青木沢B	(低位段丘下段)	縄文(晩期)
5	舟 窪	〃	縄文
6	内 城 I	〃	縄文・平安
7	堀ノ瀬	中町	縄文・古墳・平安

●年代は仙台市文化財分布図(1983)。

地形区分は地形分類図(仙台市科学館1985年発行予定)による。

No	遺跡名	段丘名	年 代
8	大貝中	中町	縄文(晩期)・古墳・平安
9	相ノ原	(低位段丘下段)	縄文(後期)
10	大 苗	〃	縄文・弥生
11	内 城 II	〃	縄文・奈良・平安
12	小塚西	〃	縄文(中期)
13	舟木南	〃	縄文
14	中谷地南	〃	縄文・古墳・平安
15	砂 田		縄文(早)・奈良・平安

第1図 周辺の遺跡

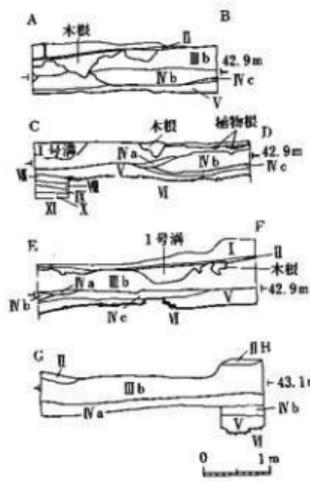
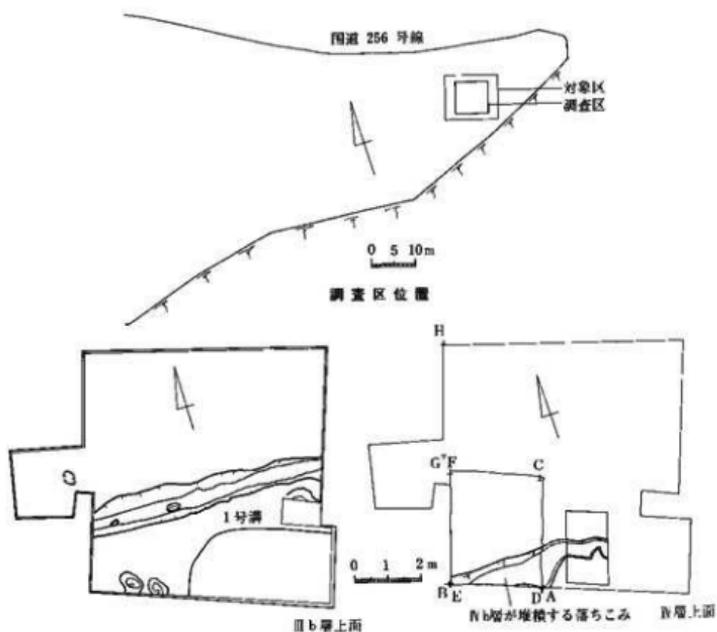
註(1)伊東信雄『宮城県遠田郡不動堂村素山貝塚調査報告』1940

(2)加藤 孝『宮城県上川名貝塚の研究—東北地方縄文式文化の編年学的研究(1)』

『宮城学院女子大学研究論集Ⅰ』1951

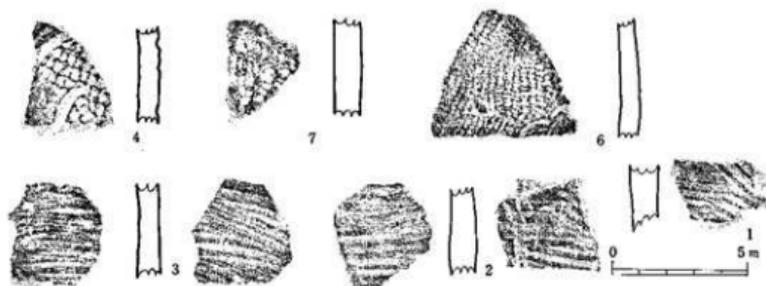
(3)興野義一「大木式土器理解のために(1)」『考古学ジャーナルNo.13』1968

「大木式土器理解のために(2)」『考古学ジャーナルNo.16』1968



層位	土色	土性	備考
I	黒色 10 YR 5/1	シルト	近年の再堆積層
II	にぶい黄褐色 10 YR 5/3	シルト	近年の再堆積層
III a	明黄褐色 10 YR 5/6	シルト	III b層の再堆積層少
III b	暗褐色 10 YR 2.5/3	シルト	
III c	黄褐色 10 YR 5/3	シルト	
III d	黄褐色 2.5 Y 5/3	砂	毎1mm明黄褐色シルト質のクマ子数無
III e	黄褐色 10 YR 5/3	シルト	
III f	明黄褐色 10 YR 5/6	粘土質シルト	
III g	砂層：にぶい黄褐色10 YR 5/3粘土質シルトに長さ2-5cm(まれに20cm)の円礫を多数に含む。淡黄色2.5 Y 5/3粘土ブロックをまばらに含む。		
III h	灰褐色 2.5 Y 5/3	砂	
III i	明黄褐色 10 YR 5/6	シルト質砂	
III j	明黄褐色 10 YR 5/6	シルト質砂	
III k	にぶい黄褐色 10 YR 5/3	砂	
III l	にぶい黄褐色 10 YR 5/3	砂	
III m	暗褐色 10 YR 2.5/3	シルト	

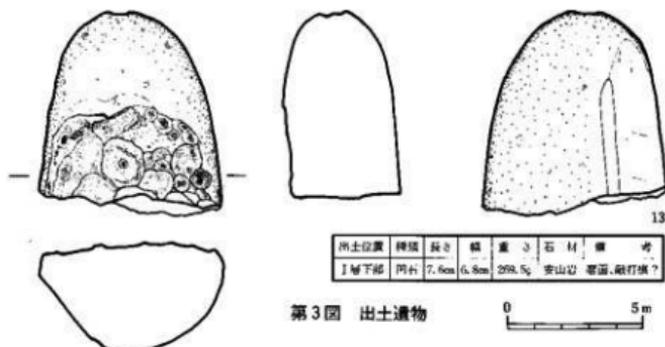
第2図 遺構



No	層位	型別	外形銘文・調整	外形銘文・調整	胎土	備考
1	Iの遺地層	体部	条痕	条痕	機織を含む。石灰粒(1mm前後)	断面肌褐色10YR ^{2.5} /5
2	II層上部	体部	条痕	条痕	機織を含む。2) 炭粒(1-3mm)	+
3	III層	体部	条痕	条痕	機織を含む。2) 炭粒(1mm前後)	一部、+
4	IV層+	体部	L.R.陶文一帯状浅線	—	砂粒(赤褐色2-5YR/5) 1mm前後多	—
5	機土	体部	条痕(横位)	条痕(横位・斜位)	機織を含む。白色粒(1mm前後)若干	断面肌褐色10YR ^{2.5} /5
6	機土	体部	L.R.陶文+横線文(横位)	—	砂粒を多く含む	—
7	遺土	体部	赤次陶文(L.R.+R.L.)	—	機織を含む。石灰粒(0.5mm前後)	断面肌褐色2-5Y ^{2.5} /5



No	種別	出土位置	石材	重量	最大長	最大幅	厚さ	折面	備考
8	二次加工ある割片	I層下部	埴原頁岩	2.0g	27mm	22mm	5mm	○	断面に未沢ある別色の付着物
9	スクレイパー	I層下部	埴原頁岩	8.0	37	25	12	○	—
10	二次加工ある割片	I層下部	埴原頁岩	3.5	28	21	9	○	折面に二次加工している。
11	割片	I層下部	埴原頁岩	2.0	35	19	—	×	微細割線あり。
12	二次加工ある割片	I層下部	埴原頁岩	2.0	26	14	—	○	—



出土位置	種類	長さ	幅	重さ	石材	備考
I層下部	円形	7.6cm	6.8cm	299.5g	安山岩	断面肌打痕?

第3図 出土遺物



発掘調査トレンチ (北から)



発掘調査トレンチ (西から)



断面 (西から)



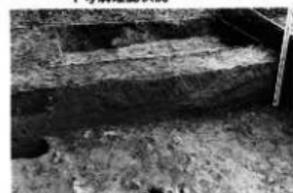
1号溝確認状況



1号溝掘上状況



西側断面 (東から)



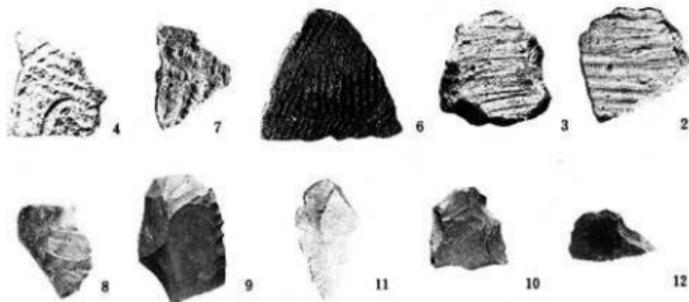
東側断面 (西から)



南側断面 (北から)



竪層上面 (西から)



写 真

若 林 城 跡

所在地 仙台市古城二丁目3の1 宮城刑務所内

期 日 試掘調査 昭和59年7月26・27日

本調査 昭和59年11月16・17日

面 積 本調査 43㎡ 試掘調査353㎡（次年度本調査区を除く）

調査員 藤沼邦彦、今野隆（以上県教育委員会 試掘調査のみ）

田中則和（仙台市教育委員会）

協 力 宮城刑務所 安住芳朗

1. 調査に至る経過

若林城跡として知られる宮城刑務所敷地内において講堂建設が企画され昭和59年10月22日付で発掘届が提出された。県教育委員会、宮城刑務所三者協議の結果、同年7月26・27日県教育委員会と合同で試掘調査を実施した。その結果、大部分刑務所に関連する旧建物基礎、配管等による擾乱であったが一部に柱穴群等を確認したので11月16・17日講堂建設予定地にかかる柱穴群の調査を実施した。なおこれとは別に工場建設が企画されたため（昭和60年4月16日付発掘届）同年5月8日試掘調査（県市合同）が実施されており平安時代？の竪穴住居跡と思われる黒褐色土のりんかくを2軒分確認している。これに伴う本調査は昭和60年度実施の予定。

2. 基本層位

I層は刑務所旧建物基礎による擾乱で基礎掘り方の可能性がある。II層は横方向のラミナにより構成されており時代不明であるが整地層の可能性もある。III層は柱穴群の検出面である。しかし後述するように柱穴の浅さから柱穴の掘りこみ面はIII層上面に上る可能性がある。なお。なおI層の擾乱層は調査区の大部分でII層中にまで及んでおり、遺構の検出はIII層中である。

3. 遺構と遺物

III層中で掘立柱建設跡の可能性あるもの1棟、掘立柱建物跡を構成している可能性がある掘り方と柱穴痕の区別されるビットがP5、P6及び小ビットであるP7～9等がある。

1号掘立柱建物跡は調査区内で完結していない。検出されたのは建物の西南部とも思われるが総柱の建物跡かどうかは不明である。南辺柱列の方向はN-104°-Eである。柱穴はP1～P4であるがP1は前述のように36.8cmと深い柱穴痕が検出されていない。又P4は擾乱のため残存部分がわずかで柱穴は確認されていない。規模は1間以上×2間以上である。西辺の柱間距離は1.65m、南辺は東から1.95m、1.65mである。P1の埋め土？、P2～4の掘り方埋め土はよい黄澄10YR5/6粘土質シルトである。遺物はビットNo5の掘り方より棒状鉄製品が1

点出土しているのみである。長さ3.8cm。断面は4.5×2mmの長方形を呈している。釘の可能性があるが錆が2～3mmの厚さでとりまいているため十分な観察ができない。

(1) 西辺と南辺のもつ角度が96°と広く、P1の柱穴が確認されない点疑問が残るが一応建物跡とした。

4. 考 察

1号掘立柱建物跡及び柱穴掘り方と柱痕跡の区別をつくピット群の年代を考えるために宮城県内における古代（平安時代に限定）、中世、近世の掘立柱建物跡を概観する。

〈平安時代〉

年代のほぼ確実な11棟を対象とした。(1)柱穴掘り方の平面形には(A)方形を基調とするもの：⁽¹⁾⁻⁽⁶⁾11例と(B)不整形のもの：1例であり(A)が圧倒的に多い。(2)柱穴掘り方の規模は一辺の長さが45～50cmを境に二つに分けられる。(A)50～130cmのもの：9例と(B)30～45cmのもの：2例がある。(3)柱痕跡の平面形については11例全てが円形であった。(4)柱間寸法については、各寸法の詳細が公表されず平均値で示されているものが相当数あるため、建物単位ごとに概数で分類せざるをえない。桁行が判明するもの(A)170～200cm：^{(1)(b)}2例、(B)190～210cm：1例、(C)190～230cm：1例、(D)200～210cm：1例、(E)225cm等間：1例、(F)230～250cm：1例、(G)250～270cm：1例、(H)250～300cm：1例、(I)290cm等間：1例と多様であるが〈中世〉に比し200cm以上の組合せが多い。

〈中世〉

年代のほぼ確実な16棟を対象とした。(1)柱穴掘り方の平面形には(A)方形と円形を基調とするもの：6例、(B)楕円形を基調とするもの：5例、(C)円形を基調とするもの：1例がある。但し(C)の例は報文に「柱痕跡を認識していない調査」とあり比較の対象としては二次的な資料である。なおこの中で時代が特定できる範囲はAが13～16世紀、Bは15～16世紀であり山城である。(2)柱穴掘り方の規模は一辺又は径が45～50cmを境に二つに分けられる。(A)20～45cm：^{(7)(8)(11c)}0例、(B)50～80cm：4例であり(A)例は13～15世紀、(B)例は15～16世紀の年代幅が考えられる。(3)柱痕跡の平面形は(A)円形：7例、(B)円形と方形：2例で(B)例に与えられた年代幅は13～15世紀である。(C)柱間寸法については(A)120～150cm：2例、(B)140～170cm：2例、(C)180～220cm：6例、(D)190～260cm：1例、(E)280～290cm：1例と(C)の180～220cmが多い。

〈近世〉（安土桃山時代～16世紀後葉を含む）

ほぼ年代の確実な7棟を対象とした。(1)柱穴掘り方は(A)長楕円形（桁方向に沿う）のもの：4例、(B)不整形楕円形が多く長楕円形のもの（桁方向に沿うわけではない）：3例である。A例は江戸時代でB例には16世紀末から17世紀初期のものを含む。(2)柱穴掘り方の規模は径30～60cm—3例、(B)70×130cm：1例、(C)100×150cm：1例であり(A)には16世紀末から17世紀初期のものが含まれ(B)(C)は江戸時代のものである。(3)柱痕跡は全て円形である。(4)柱間寸法は(A)180～190cm—2例、(B)190～200cm：^(9c)1例、(C)200～215cm：1例、(D)180～240cm：1例、(E)220～240cm

：1例であり多様である。この内(A)例は16世紀末～17世紀初期、(B)(D)(E)は江戸時代後期の年代が与えられている。

さて今回調査した1号掘立柱建物跡について(1)柱穴掘り方は(A)の方形と円形を基調とするものに相当する。(2)の柱穴掘り方の規模は一辺24～37cm、もしくは径30cmであり、規模の点だけでは方形を基調とする平安時代でないわけではないが掘り方に方形と円形があるという点で検出個数の少なさという限界は否めないものの中世において多数をしめる掘り方規模である(A)一辺又は径が20～45cmのグループに相当する。(3)の円柱痕そのものは特に年代を限定する要素ではない。(4)の柱間寸法については1.95+1.75cm及び1.65cmという値は平安時代、中世、及び近世にも近いデータがある。あえて言えば180～220cm間の多用という事がいえるのかも知れない。又16世紀末から17世紀初期と年代が限定される南小泉遺跡例でも180～190cmという寸法値であることは注意すべきである。以上年代決定要素としては(1)の柱穴掘り方の形態がかなり有効であり、これを中世から近世初期とすれば(2)、(3)、(4)の項目については矛盾がない。

次に柱穴掘り方と柱穴痕が区別されるピット群の中でピット5は、明瞭な角柱痕をもってしている。残存状況が良く柱の角がほぼ直角に近かったと推定される。ピット5掘り方埋め土からは棒状鉄製品が出土しているが現段階では年代決定資料とはなりえない。角柱痕は、前述の整理からすれば13～16世紀である。又、掘立柱建物跡が存在するのは、東北地方では新庄藩の文化二年(1763)年の百姓家作令で18世紀中葉に礎石立への転換期が知られ、名主クラスでは江刺市向山田後藤家調査例では角柱を用い、出土笹塔婆から元禄八(1695)年前後に転換期が認められる⁹⁵。未だ調査例は少ないが江戸時代を通じて年代的、階層の上層から下層へと掘立柱から礎石立へと転換していったと思われる。角柱の例は引用した14～16世紀とされる御所館跡(山城)の5-4号棟及び、年代決定遺物に乏しく分析対象としなかったが今泉城跡堀跡との中軸線並行関係から16～17世紀初期と推定される18号建物跡に多用されている。又同じく堀との並行関係から13～15世紀と推定される17号建物跡も柱穴形状から角柱が使われていた可能性がある。次に柱痕形態のみならず建物跡を考える場合にその住人の階層を考えることは重要な課題の一つである。現在確認される角柱痕例は、山城である御所館跡と平城である今泉城跡である。これらは引用した各遺跡例と間に、規模等において明瞭な差を見出し難いものであり今後の検討課題である。なお御所館跡例においては、立地が館の平場の谷をはさんだ南端に位置し、掲載されているのは検出された36棟の内1棟の一部ということでその性格については疑問な点が多い。以上、角柱をもつ建物、14～17世紀を中心とする年代が考えられる。したがって1号建物跡とピット5は、大きくは同じ年代幅にはいつてくるわけであるがこのことは1号建物跡とピット5の掘り方埋め土が共通して、にぶい黄澄10YR弱粘土質シルトであることと矛盾しない。

若林城等との関連

さて、宮城刑務所敷地は若林城跡として知られている。若林城は、伊達政宗晩年の居城である。1627（寛永四）年、「屋敷構え」の許可を幕府から得て、翌年には完成している。1636（寛永十三）年、政宗が没し構築物を残し、城及び城下に形成された町屋敷は廃止された。「屋形」は1636年、建設中の仙台北二の丸に移された。また、若林城築城以前、当地はすでに「古城」と呼ばれていた。『仙台北古城書』にみえる「小泉邑」の二つの古城（いずれも岡分氏居城か）のうちどちらかの可能性がある。うち一つは天文年中（1532～1555年）以降の居城で末孫は国分能登守盛氏居城と記してある。これらの文献からすれば、政宗築城以前にこの地に城郭があったと仮定して、文献からは、中世及び近世初期（17世紀前半）の年代が考えられる。

まとめ

1号掘立柱建物跡及び掘立柱建物跡を構成する可能性のある柱穴掘り方と柱痕跡の区別のあるピット群は以上の考察から中世から近世初期の幅におさまる可能性が高い。このことは文献上の若林城（1627～1636）及び国分氏の居城が同地に存在した場合の年代である中世から近世初期の年代幅と重なる。したがって今後、これらに相当する可能性を含めて検証していく必要がある。⁹³

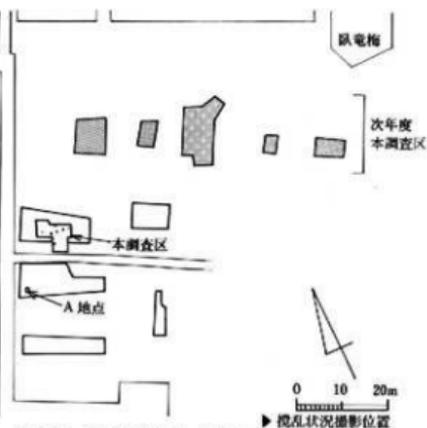
（田中則和）

註

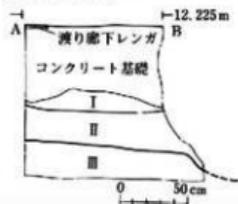
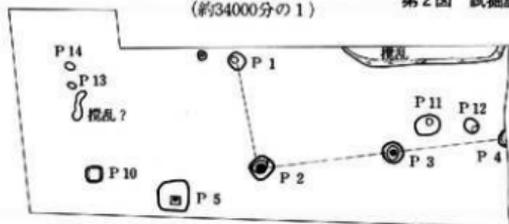
- (1) 阿部博志・千葉宗久「台ノ山遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅱ』1980 宮城県教育委員会一第1^(a)、2^(b)、3^(c)号掘立柱建物跡
- (2) 加藤道雄・佐藤好一「藤原敷遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅱ』1980 宮城県教育委員会一第1^(a)、2号^(b)掘立柱建物跡
- (3) 青沼・民・長島崇・「中田畑中遺跡」1983 仙台市教育委員会一SB1^(a)、2^(b)、3^(c)号掘立柱建物跡
- (4) 渡部弘美「南小泉遺跡」1983 仙台市教育委員会一2号掘立柱建物跡
- (5) 渡部弘美「燕沢遺跡」1984 仙台市教育委員会一1号掘立柱建物跡
- (6) 佐々木和博「鹿島遺跡・竹之内遺跡」1985 宮城県教育委員会一掘立柱建物跡1棟
- (7) 加藤道雄・阿部博志「観音沢遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅳ』1980 宮城県教育委員会一第1^(a)、2^(b)、3^(c)、4^(d)、5^(e)、6^(f)、7^(g)号建物跡
- (8) 黒川利司「持長寺遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅳ』1980 宮城県教育委員会一4号建物跡
- (9) 小井川和夫「八沢要害遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅳ』1980 宮城県教育委員会一B-2^(a)、4^(b)、5^(c)号棟
- (10) 手塚 均「鶴ノ丸遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅴ』1981 宮城県教育委員会一1・3号掘立柱建物跡
- (11) 斎藤内弘「八谷館」一B1^(a)、5^(b)、6^(c)、7^(d)、12^(e)号棟、「駒場小屋館」一5^(f)、6号^(g)棟「御所館」^(h)一9-4号棟『東北自動車道遺跡調査報告書』1983 宮城県教育委員会
- (12) 佐藤洋他「今泉城跡」1983 仙台市教育委員会一17・18号建物跡
- (13) 菊地逸夫「南小泉遺跡」1983 宮城県教育委員会一第1・2号建物跡一16世紀末～17世紀初期
- (14) 小倉強「東北の古民家」1955 相模書房
太田博太郎「近世の農家」『日本住宅史の研究（日本建築史論集Ⅱ）』1984 岩波書店
- (15) 宮沢賢士「近世民家の地域的特色」『講座・日本技術の社会史』1983 日本評論社
- (16) 小林清治「第二章 城下の拡張と二ノ丸の構築」『仙北市史1』1954 仙北市役所
- (17) 三原良吉『宮城刑務所と若林城』1978（西）宮城刑務所



第1図 大正14年(1925)発行「仙台近郊図」
(約34000分の1)

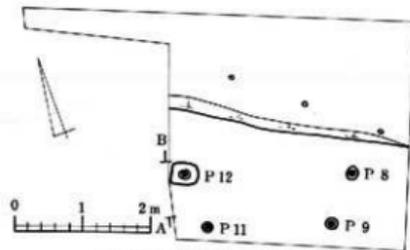


第2図 試掘調査区と本調査区



I層	黄褐色10Y R 写シルト 明黄褐色10Y R 写シルトのラシをはきむ
II層	褐色10Y R 写シルトと黄褐色 10Y R 写シルトの互層的な混合
III層	黄褐色10Y R 写シルト

第3図 基本層位



II層中検出柱穴群 (黒丸は柱穴下端)

I号建物跡

群	1	2	3	4
形状	隅丸方形	隅丸方形	円形	円形?
長さ	36.8 長軸25 短軸23	24.1 - 短32	13.0 径30	—
築方	に20・黄褐色10Y R 写シルト	に20・黄褐色10Y R 写シルト	に20・黄褐色10Y R 写シルト	に20・黄褐色10Y R 写シルト
柱穴	—	に20・黄褐色10Y R 写シルト	に20・黄褐色10Y R 写シルト	—
層位	—	柱穴群は築方の下より	—	3分の2は層位が不詳

柱痕跡と掘り方の区別のつくもの

番号	5	高丸方形	6	高丸方形	7	円形	8	円形	9	円形
深さ	55.7	径46	38.8	長軸40 短軸34	19.5	径14	4.5	径17	3.9	径17
掘り方	土の黄褐色Y R 5% 粘土質シルト		褐色Y R 5% 粘土質シルト		暗褐色Y R 5% 粘土質シルト		土の黄褐色Y R 5% 粘土質シルト		土の黄褐色Y R 5% 粘土質シルト	
柱穴	黄褐色Y R 5% 粘土質土 (含水)		褐色Y R 5% 粘土質シルト		土の黄褐色Y R 5% 粘土質シルト		褐色Y R 5% 粘土質土		土の黄褐色Y R 5% 粘土質シルト	
備考	北穴は方形穴×10cm F 埋は埋深約30cm 掘り方より検出遺品1点				掘り方地構上の壁は酸化し埋め土は強くグライ化している。					

ピット

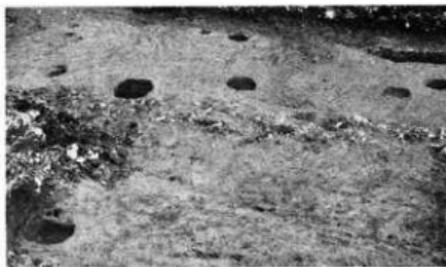
番号	10	高丸方形	11	不整形円形	12	不整形円形	13	不整形円形	14	楕円形
深さ	径35.1 径24	深さ59.5 長軸38 短軸30	深さ30.0 径22	深さ6.0 径10	深さ36.4					
地層	土の黄褐色Y R 5% 粘土質シルト		褐色Y R 5% 粘土質シルト		褐色Y R 5% 粘土質シルト		土の黄褐色Y R 5% 粘土質シルト			

第4図 III層中検出柱穴群他

単位: cm



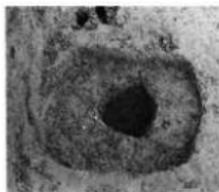
柱穴群全景 (南から)



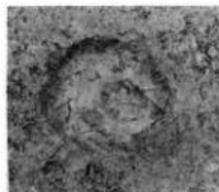
柱穴群 (南から)



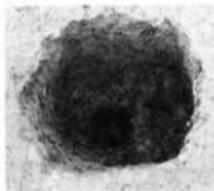
南端試掘トレンチ状況 (第2図)



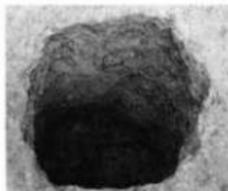
P 12



P 9



P 5



P 5 掘り上げ状況



P 5 掘り方出土鉄製品

写真1 III層中検出柱穴群他

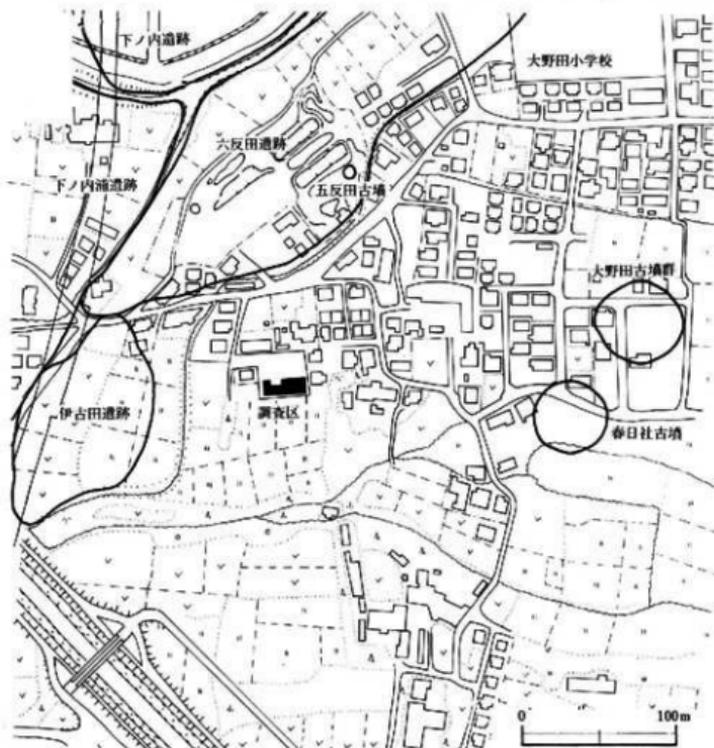
第2図

伊古田遺跡

1、遺跡の位置と環境

伊古田遺跡は仙台市の南部、仙台市大野田字千菊田7-1にある(第1図)。この位置は国鉄長町駅の南西約2kmである。本遺跡は沖積平野である「宮城野海岸平野」の中で、「郡山低地」に含まれる。「郡山低地」の地形を見ると、西半部の後背湿地、東部及び南部の自然堤防に大別される。この地形は、本遺跡の南約800mを東流する名取川と支流の広瀬川、筑川等が形成したものと考えられている。本遺跡は自然堤防上に立地し、標高は13.0m前後である。

本遺跡の周辺には、縄文時代早期から中世にかけての遺跡が数多く分布している。主な遺跡としては、本遺跡の西側に下ノ内遺跡(縄文・古墳・奈良)、富沢館跡(中世)、北側に六反田遺



第1図 調査区位置図

跡（縄文・古墳・奈良）、富沢水田遺跡（弥生・平安・中世）、下ノ内浦遺跡（縄文・弥生・古墳・平安）、山口遺跡（縄文・奈良・平安）などがある。また、五反田古墳・大野田古墳群・春日社古墳・王の塚古墳・鳥居塚古墳などの古墳が集中して分布している。今年度の調査では、縄文時代早期の押型文土器（下ノ内浦遺跡）、縄文時代後期の配石墓（下ノ内浦遺跡）、配石遺構（六反田遺跡）の他、同時期の大型土偶（伊古田遺跡）等が発見されている。

2、調査に至る経過

伊古田遺跡の位置する大野田地区は、最近になって高速鉄道建設工事に伴い周囲の開発が増加し、田畑は減少の一途をたどっている地域である。将来、高速鉄道の開業やこれに伴う交通網の整備等により、さらに宅地化等が促進されると思われる。

昭和59年9月20日、仙台市大野田字元袋19、板橋興一郎氏より伊古田遺跡の発掘届が仙台市教育委員会に提出された。その内容は、仙台市大野田字千疋田7-1に共同住宅を建設するというものであった。工事がパイル工法を伴い地下遺構が損なわれる恐れがあったため、同年10月11日から4日間試掘調査を実施した。その結果、旧耕作土（畑）直下で円形周溝1基、小溝状遺構・ピットを多数検出した。これに基づき、当教育委員会は申請者に対し設計変更を要請し、埋蔵文化財の保護に努めたが、建物の構造上全面的な設計変更は不可能ということであった。

以上の経緯から、仙台市教育委員会は建物部分によって破壊される箇所について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで申請者の承諾を得、昭和59年10月25日から本調査を実施した。

3、基本層位

旧耕作土を含め8層確認された。第1・2層は旧耕作土（畑）である。第3層は暗灰黄色のシルト層で調査区東側を中心に耕作による削平が認められる。第4層は褐色のシルト層、第5層は3層に細分されるにぶい黄褐色のシルト質粘土層、第6層は暗褐色の砂質シルト層、第7層はにぶい黄褐色の砂層、第8層は砂礫層である。

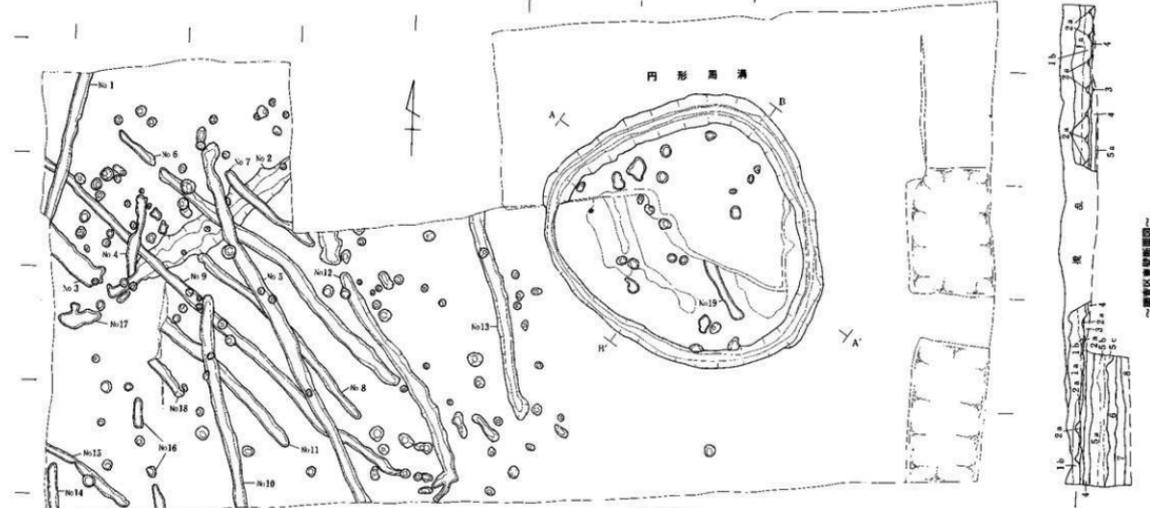
今回の調査で遺構確認面となったのは、第3層及び第4層、第5層の上面である。本遺跡内及び北側に隣接する六反田遺跡で確認されている縄文時代の遺物包含層は検出されなかった。

4、発見遺構と出土遺物

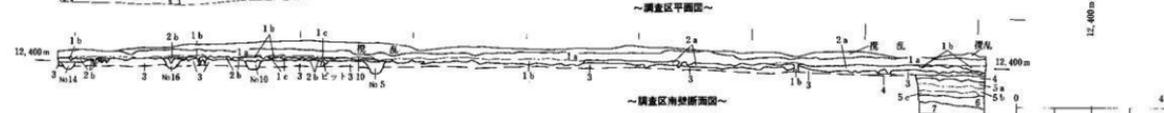
今回の調査で発見された遺構は、円形周溝1基、小溝状遺構19状、ピット138個である（第3図）。

円形周溝 調査区東側第3層上面で検出した。南半部は耕作による削平を受けているため第4層上面で検出した。

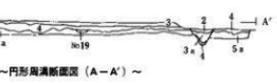
〔平面形・規模〕長径8.0m×短径6.9mの不整形円形に溝が途切れなくめぐるものである。



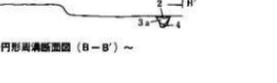
上 断面図(周溝断面) (B-B')



~調査区南壁断面図~



~円形周溝断面図(A-A')~



~円形周溝断面図(B-B')~

周溝地積土

層位	土質	土色	備考
1	10Y黄褐色砂	シ	17.5%の腐植質を有する粘り土。一部は少量の腐植質を有する粘り土。腐植質は少量の腐植質を有する粘り土。
2	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
3	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
4	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ

層位	土質	土色	備考
1	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
2	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
3	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
4	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
5	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
6	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
7	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
8	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
9	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
10	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
11	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
12	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
13	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
14	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
15	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
16	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
17	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
18	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ
19	2.5Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ

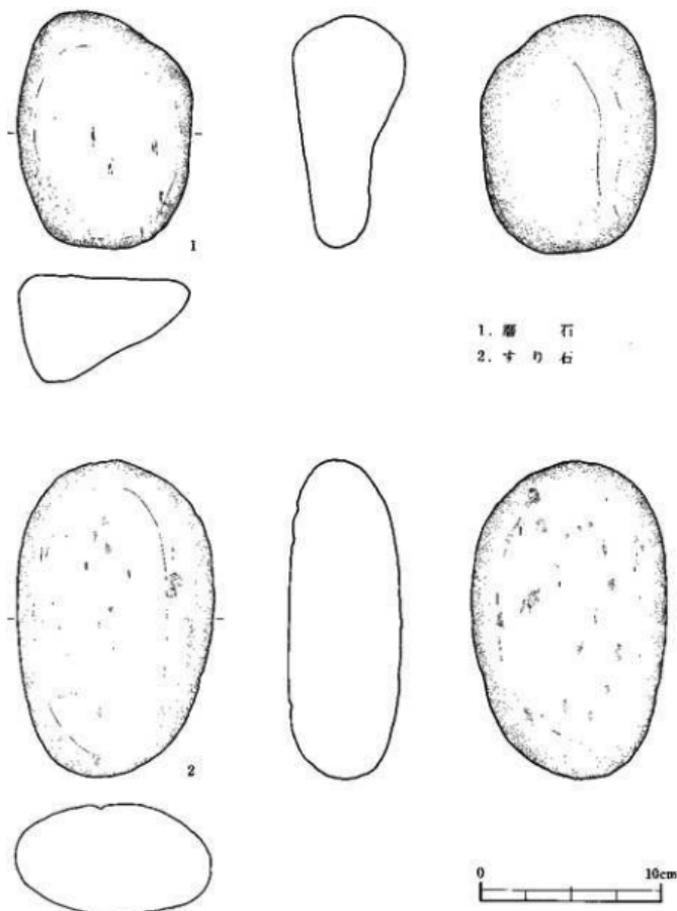
小溝状遺構観察表

No.	土層階位 (m)	方位	深さ (cm)	新築時	土質	土色	結核	石灰	備考	遺物	その他
1	23-25 (4)	N-83°-E 7-15	10Y黄褐色砂	結核質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	9.5cmの土	9.5cmの土
2	20-25 (6)	N-63°-E 5-20	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	4.5cmの土	4.5cmの土
3	50-60 (10)	N-85°-W 3-5	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	11cmの土	11cmの土
4	10-20 (1)	N-30°-E 3-4	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	7.5cmの土	7.5cmの土
5	20-25 (10.5)	N-28°-W 5-20	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	7.5cmの土	7.5cmの土
6	30-50 (10.0)	N-30°-W 5-20	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
7	15-25 (5.5)	N-82°-W 3-7	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
8	15-25 (8.5)	N-85°-W 5-25	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
9	20-30 (12.7)	N-50°-W 3-30	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
10	20-40 (12.0)	N-82°-W 3-30	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
11	20-40 (8.0)	N-47°-W 3-15	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
12	20-40 (7.0)	N-30°-W 5-30	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
13	20-40 (8.0)	N-34°-W 5-30	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
14	20-40 (12.0)	N 5°-W 5-30	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
15	10-15 (7.7)	N-50°-W 3-11	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
16	25-35 (12.2)	N-34°-W 3-25	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
17	20-45 (10.0)	N-60°-E 2-5	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
18	20-25 (11.5)	N-41°-W 10-10	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土
19	15-20 (11.0)	N-30°-W 10	10Y黄褐色砂	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	粘り質シ	10Y黄褐色砂に少量の腐植質を有する粘り質シ。腐植質は少量の腐植質を有する粘り質シ。	2.5cmの土	2.5cmの土

第2図 遺構配置図

〔溝〕上端幅40～88cm、下端幅6～28cm、深さ50～67cmを計る。南半部は削平により、上端幅20～47cm、下端幅8～27cm、深さ20～49cmを計る。底面にはわずかに凹凸があり、北側及び東側の一部が深い。断面形は「V」字形または「U」字形を呈する。

〔溝内堆積土〕4層に大別される。第1層は暗褐色シルト層、第2層は灰黄褐色粘土質シルト層、第3層はにぶい黄褐色シルト層及び褐灰色粘土質シルト層、第4層はにぶい黄褐色粘土質



第3図 小溝状遺構出土礫石器実測図

シルト層である。各層位は自然堆積の様相を呈している。

〔台状部〕長径6.9m×短径5.9mの不整形を呈する。南半部は削平されている。封土等は認められず、残存部は平坦な面となっている。上面でピットを検出したが、堆積土が自然堆積を示すことから、台状部に関する遺構とは考えにくい。

〔出土遺物〕堆積土1層中及び2層中より土師器片が各々3点、31層中より土師器片1点の計7点が出土している。底面からの出土遺物はない。いずれも細片で磨滅が著しく、図化したものは1点もない。

小溝状遺構 調査区西側で18条、円形周溝の下層で1条の計19条検出した。検出面は第3層上面と第4層上面、第5層上面である。第4層上面検出のものは、重複関係から2段階に分けることができる。

〔第3層上面〕第3層上面検出の小溝状遺構は、1・4・5・10・12・13・14・16号の8条である。これらはその中軸線方向がN-9°-EからN-30°-Wの間に収まり、遺構の間隔は約1.5～4m程である。出土遺物には、5号出土の磨面及び敲打痕のある礫石器2点（第3図）がある。

〔第4層上面〕第4層上面検出の小溝状遺構は、その中軸線方向と重複関係からA・Bの2群に分けることができる。

A群はその方向がN-41°-WからN-52°-Wの間に収まるもので、3・6・7・8・9・11・15・18号の8条である。それらの間隔は15号を除けば、ほぼ0.7～1.3mと一定で平行関係を成している。重複関係はB群を切る。出土遺物には11号からままとって出土した弥生土器の甕がある。破片数は9点で、全て体部のものである。外面は横位RL縄文の地文のみで、内面にはミガキが施されている。また、15号からは土師器甕の破片1点が出土している。

B群は2・17号で、これらは一部途切れるが同一の遺構と考えられる。2号からは弥生土器の破片を6点出土しており、A群11号出土の甕と接合可能な同一個体の破片である。

〔第5層上面〕円形周溝の下層、第5層上面で19号を1条検出した。方向はN-30°-Wで、出土遺物はない。

ピット 調査区西側を中心に第3層及び第4層上面で検出した。総数は138個である。平面形、深さ等に一定の規則性は認められない。出土遺物もなく、性格は不明である。

4、まとめ

(1) 円形周溝 本調査区で検出した円形周溝の県内における類別には、名取市西野田遺跡(註1)、栗原郡志波姫町の鶴ノ丸遺跡(註2)のものがある。西野田遺跡では2基検出され、いずれも幅0.4～1mの溝が直径10mを越し、円形にめぐむるものである。鶴ノ丸遺跡では5基検出され、幅0.4～2.2mの溝が直径6～12mの範囲で円形、あるいは楕円形にめぐむるものである。報告書

では2遺跡とも、「墳墓とする積極的な根拠はないが、型態的類似性をもとに周溝墓の可能性を否定するものではない」としている。

本調査区の場合も、就述のように時期及び性格を決定づける遺物の出土等がないことから、現段階では円形周溝と考えざるを得ない。しかし、本遺跡周辺の大野田地区には、埴輪を出土した大野田古墳群（註3）の他に、五反田古墳（註4）、鳥居塚古墳・春日社古墳（註5）、王ノ塚古墳などが集中して分布していることから、周溝墓あるいは円墳の可能性も残されていると考えられよう。

- (2) 小溝状遺構 小溝状遺構は4群に分けられる。中でも第3層・第4層上面検出のものは、各々平行して走り、その方向・形状等から何らかのまとまりをもった遺構群と考えられる（註6）。しかし、その性格については不明である。小溝状遺構の時期は、堆積土からの出土遺物に弥生時代後期の犬山式期と考えられる弥生土器、礫石器の他、土師器片があり、また第4層上面からは土師器坏（非口クロ）の小破片2点が出土していること等から、古墳時代と考えられる。
- (3) ビット 性格は不明であるが、小溝状遺構を切っており、時期は小溝状遺構より新しいと考えられる

以上が調査の概略であるが、円形周溝については、今後とも隣接した地区で同様の遺構、あるいは埋没古墳等が発見される可能性は残されており、資料の蓄積を待って検討を加える必要があろう。小溝状遺構も周辺の地区での発見例があり、科学的な分析の積極的導入も含め、性格の究明が急がれるべきである。また、弥生土器の出土は、隣接した地区における弥生時代の遺構の存在を暗示するものであり、今後の調査を待って検討して行きたい。

註・参考文献

- 註1 宮城県教育委員会「西野田遺跡」〔東北新幹線関係遺跡調査報告書(1)〕宮城県文化財調査報告書第35集 1974、3
- 註2 宮城県教育委員会「鶴ノ丸遺跡」〔東北自動車道遺跡調査報告書V〕宮城県文化財調査報告書第81集 1981、6
- 註3 仙台市教育委員会「大野田古墳群」〔年報3〕仙台市文化財調査報告書第41集 1982、3
- 註4 仙台市教育委員会「六反田遺跡」仙台市文化財調査報告書第34集 1981、12
- 註5 仙台市教育委員会「鳥居塚・春日社古墳」発掘調査現地説明会資料 1978、1
- 註6 このような小溝状遺構の類別としては、本遺跡の近隣では、六反田遺跡（註4に同じ）、山口遺跡（『山口遺跡Ⅱ』・仙台市文化財調査報告書第61集・1984・2）の他、下ノ内遺跡（『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ～Ⅲ』・仙台市文化財調査報告書第40・56・69集）、下ノ内補遺跡（『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ』・仙台市文化財調査報告書第56集）などでの検出例がある。現段階では、畑跡とする理解もあるが、この考えを裏付ける遺物等報告は行われていない。
(金森安孝・渡辺 誠)



図版 1
調査区全景
(西より)



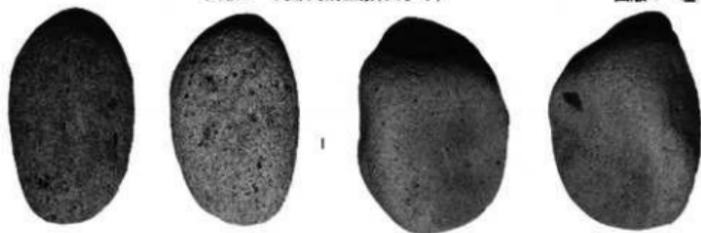
図版 2 円形周溝全景(西より)



図版 3 円形周溝セクション(B地点)



図版 4 基本層位セクション(調査区南東角)



図版 5
5号小溝状遺構
出土碑石器(1・2)

2

Ⅲ.その他

郡山遺跡第1次五ヶ年発掘調査の概要

1.はじめに

昭和55年度から開始された郡山遺跡の発掘調査は昭和59年度で第1次5ヶ年計画案に基づく発掘調査を終了し、郡山一丁目から六丁目にわたる遺跡推定範囲72万㎡の中で、第1次から第49次までの49地区についての発掘調査を実施した。5ヶ年計画の調査が開始される前年度の昭和54年度に実施した宅地造成に伴う事前調査を含め、この6ヶ年の調査総面積は10,058㎡に及ぶが、遺跡全域の中での調査進捗率はわずか1.5%にすぎない。

当初想定された三町半ほどの官衙域は西方と北方に拡大し、方四町の占地をしていることが確認され、古くから知られていた古瓦散布地は官衙とともに造営された寺院跡であることが判明した。また、これらの方四町官衙、寺院が造営される前段階に方六町前後と推定される官衙が存在していたことも明らかになった。これまでの各年度の報告の中で、古い段階の官衙をⅠ期官衙、新しい段階の官衙をⅡ期官衙、寺院跡をⅡ期併行寺院跡としており、これに従って5ヶ年の発掘調査の概要を報告したい。

2. 遺構の変遷

発見された遺構群は大別すれば5段階に分けられる。次のとおりである。

〔第1段階〕 古墳時代中期の遺物が含まれる溝跡。

〔第2段階〕 竪穴住居跡によって構成され、7世紀代と考えられる、在地の土器に混じって関東系（鬼高式類似）土師器がみられる。

〔第3段階〕 独立柱建物跡、材木列、一本柱列、竪穴住居跡によって構成される官衙遺構群で、遺構群の範囲は五町以上に及び、7世紀後半代と考えられる。この段階の官衙をⅠ期官衙とする。

〔第4段階〕 第3段階とほぼ同様の遺構によって構成され、方四町の外郭を持つ官衙遺構群と、官衙の南側に位置する推定方二町の寺院を構成する遺構群とからなる。7世紀末葉から8世紀初頭と考えられる。この段階の官衙をⅡ期官衙、寺院をⅡ期併行寺院とする。

〔第5段階〕 井戸跡、小掘立柱建物群によって構成され、中世以降と考えられる。

これらの遺構群のうち、官衙遺構として主体をなす第3段階のⅠ期官衙と第4段階のⅡ期官衙および、Ⅱ期併行寺院についての概要をまとめてみたい。

(1) I期官衙

東西400m以上、南北600m以上にわたって広がっており、造営基準方向はN-30°-E前後である。掘立柱建物跡、竪穴住居跡、材木列などによって構成されており、外郭、政庁とも不明であるが、建物跡が整然と並び、門を伴う材木列によって囲まれた一両二院などがある。この官衙ブロックは東西51~54m、南北60m以上の南北に長いもので、建物跡や堀跡は3回程の変遷がみられる。この官衙ブロックの中では掘立柱建物と竪穴住居が並置されており、これらの竪穴住居は、官衙内での厨・寢屋等の施設と考えられる。また、この官衙ブロックとは別に直径30cm以上、70~80cmの柱材を使用した総柱建物による一群があり、これは倉庫ブロックと考えられる。さらにこの倉庫ブロックの南には桁行8間以上にもなる長大な建物跡があり、国衙政庁脇殿、郡衙政庁長屋等の建物に比定されるものである。

I期官衙については不明な部分が多く、性格も判然としないが、官衙の存続年代は7世紀の中葉を上限とし、末葉を下限とする7世紀の後半代と考えられ、この中で少なくとも3回程の変遷がみられ、次に続くII期官衙との間に、現段階では断続期間を認め難く、II期官衙の造営に伴い、意図的に取り壊された可能性が高いほどと考えられる。

(2) II期官衙

東西428m、南北422mのほぼ方四町を呈し、造営基準方向はN-0°-Sの真北方向である。外郭は材木列による堀とその外側の大溝から成り、材木列は直径30cm前後のクリ丸材を密接して立て並べており、修築や抜き取りが行なわれた形跡が認められないことから、官衙の廃絶段階まで機能していたものとみられる。この外郭材木列の南西隅と西辺には、材木列と一体となった櫓状建物跡があり、外郭の各コーナーおよび、各辺の要所にはこのような建物が付設されていたことが考えられるが、櫓状建物の間隔、門との配置関係、および建物の性格については不明である。

材木列外側の大溝は、材木列との心の間隔8.5~9mで、ほぼ30尺と規則的に造られている。大溝は上幅3~5m、深さ60~80cmで、断面形は扁平U字形ないしは逆台形を呈しており、後世の二次擾乱・削平等により、幅・深さが一定でない。しかし、上幅に比して浅く、外部からの侵入を阻む防禦機能を持っていたとはみられないもので、形式的な区画の溝とみておきたい。大溝は推積度の状況や遺物出土状況などからみて、恒常的に貯水していたとは考え難く、短期間のうちに人為的に埋め戻されたことも考えられる。

官衙内部の建物は、南東コーナー付近から、3回程の重複関係をもって、掘立柱建物跡が15棟程検出されている他は、外郭南辺より北に3町の位置で、東西方向に延びる一本柱列とその北側に建物跡3棟が重複して検出されたが、建物跡、住居跡、井戸跡、小溝跡などが散在的にみられるのみで、内部の状況は殆んど解明されていない。政庁もまだ明らかでないが、北側二

町と南側一町には存在し得ないことが明らかであり、南北中軸線上に位置するものであれば、南二町の範囲内に推定することができよう。

このⅡ期官衙は前述したⅠ期官衙の廃絶後、断続なく造営が開始されたものと考えられ、造営の上限は7世紀末葉、下限は外郭大溝1層出土の土器群、ならびに併設された寺院に使用された瓦の検討から陸奥国府多賀城跡の創建年代である養老から神亀年間の前後と考えられ、国府の造営と相前後して意図的に廃絶された可能性が高い。

(3) Ⅱ期官衙併設寺院

Ⅱ期官衙の南側に、一町隔て、方二町程度と推定され、Ⅱ期官衙西辺の南延長線が寺域の西限と考えられることから、官衙と同一基準地割で造営されたものとみられる。寺院中樞建物群は推定範囲の中でもその中心部の極めて限られた地区にあるものと考えられる。

推定域内中心部からは、東西32m以上、南北12m以上の範囲で基壇の版築を検出し、これを講堂跡と推定しており、この周辺からは多量の瓦類が出土している。軒瓦は八葉単弁蓮華文とロクロ挽き重弧文によるセットで、一様式のみである。また、通常の瓦類にまじって、無文の駒尾片が多数出土している。さらに寺院域で検出した井戸跡より、「学生」「寺」銘や写経用定木（裏面に経文を習書）などの木簡が出土しており、寺院の存在を裏づけている。

造営年代はⅡ期官衙と同様、Ⅰ期官衙の終末と考えられる7世紀末葉を上限とし、軒瓦のセット関係が多賀城創建期の瓦より一段古い様相を示していると考えられることから、8世紀初頭を下限としておきたい。

昭和54年に実施された事前調査を含めて、この6ヶ年の発掘調査で、遺跡全面積の約1.5%しか調査が終了しておらず、検討すべき課題は山積している。昭和60年度からの第2次5ヶ年調査の中で、細部にわたる年代検討とあわせ、官衙の性格を究明する必要がある。

官衙・寺院の年代観については先に述べた通りであるが、7世紀後半から8世紀初頭の時代は645年の大化改新から、藤原宮の造営を経て、710年の平城遷都まで、日本の古代社会の激動の時期である。次々と急激な変革が断行され、律令体制が整備されるという社会状況の中で、この官衙・寺院の性格を究明することは、これまで辺境視されていた陸奥国に中央の支配力がどのような形で及んできたのかを解明する重要な問題を含んでいる。さらに陸奥国古代史の中での郡山遺跡の位置づけについても考古学・古代史両面からの検討を加えていく必要がある。

尚、詳細については、仙台市文化財調査報告書（以下、仙文調）第23集「年報Ⅰ」（昭和55年3月）、仙文調第29集「郡山遺跡Ⅰ」（昭和56年3月）、仙文調第38集「郡山遺跡Ⅱ」（昭和57年3月）、仙文調42集「郡山遺跡Ⅲ」（昭和57年3月）、仙文調第46集「郡山遺跡Ⅳ」（昭和58年3月）、仙文調64集「郡山遺跡Ⅴ」（昭和59年3月）、仙文調第74集「郡山遺跡Ⅵ」（昭和60年3月）の中で、各年度の概要を参照されたい。

（木村浩二）

「東北古代稲作に関するシンポジウム」 参加報告

1. はじめに

今回のシンポジウムは、青森県南津軽郡田舎館村垂柳遺跡において東北地方で最初に検出された弥生時代中期の水田跡を中心として、仙台市富沢水田遺跡を含め、全国的な視野に立ち、東北地方の古代の稲作の内容を把握しようと企画されたものである。参加者はパネラー・司会者の他合わせて50余名を数え、特に田舎館村の関係者の参加が目をつけた。仙台市からは、斎野裕彦・工藤哲司が参加し、工藤がパネラーを務めた。

2. 開催要項

- 日時 昭和59年11月24日（土）から25日（日）
場所 厚生年金会館青森おのえ荘（青森県南津軽郡尾上町猿賀）
主催 東北稲作史研究会
世話人 東北大学名誉教授 伊東 信雄
東北大学名誉教授 藤原 彰夫
後援 青森県教育委員会 田舎館村教育委員会

3. 第1日目一問題提出（11月24日 9時30分から17時）

伊藤信雄東北大学名誉教授の挨拶の後、問題提出として考古学側から7名自然科学側から5名の発表があった。考古学側の発表では、遠藤（青森県埋蔵文化財センター）・兎玉（秋田県埋蔵文化財センター）両氏と工藤から弥生時代の稲作が東北地方で行なわれていたことの空間的な広がりが示され、小林（八戸市博物館）・鈴木（青森県立郷土館）尚氏は、東北地方の稲作の開始期がさらに古くなる可能性を示すデータを提出した。また須藤氏（東北大学助教授）は稲作文化に伴う石包丁の分類とその石材の産地について述べ、工藤氏（奈良国立文化財研究所）は西日本の水田跡を紹介し、全国的な見地から垂柳遺跡の水田跡を位置づけた。自然科学側では、垂柳遺跡の上壤分析を松井氏（地域開発コンサルタント）が、プラント・オブール分析を藤原氏（宮崎大学助教授）が発表し、松井氏からは、水田跡を覆う5層が火山灰ではないことが示された。また小野氏（青森県農業試験場）は垂柳遺跡を含む弘前周辺は自然災害が青森県の他の地域と較べ少ないこと、気候的に安定していることを述べ、星川氏（東北大学教授）は中国から取り寄せた極早生種の栽培実験結果から、垂柳遺跡にもたらされた稲は、極早生種である可能性が強いと自説を開陳した。最後の中村氏（高知大学名誉教授）は、垂柳遺跡と青森県月見野の分析結果からB. P. 3000年以降、B. P. 1000年頃までの気候変化を示した。

以上の発表は各氏持ち時間20分ではあつたが、大半の方が時間をオーバーし、質問もなされ、第2日の意見交換の準備が整った。

4. 第2日一意見交換 (11月25日 9時30分から12時)

朝方の降雪のため、窓の外は一面の銀世界となっていたが、会場は参加者の熱気に包まれ、3時間がまたたく間にすぎた。

意見交換は、垂柳遺跡の水田跡を中心として、

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 稲作が可能となった条件 | 4. その後の稲作 |
| 2. 稲作技術の高さ | 5. 北海道での稲作の可能性。 |
| 3. 稲作の開始された実年代 | 6. 今後の研究 |

という順に進められた。

1については、第1日の小野氏の発表に加え、島田氏(コープケミカルK, K.)より日本海側には山背の影響の少ない盆地が多く、気候的に安定しているという意見が出され、星川氏が、そこに入ってきた極早生種が感温性種であった可能性を述べた。

2では、庄子氏(東北大学教授)が弥生時代の水田が溜田から始まったことを、用水確保、潜在地力、立地の面を根拠として述べ、藤原(彰)氏(東北大学名誉教授)がスマトラの水田の移り変わりから、そのどの時期のものが日本へ入ってきたかが問題とされる旨の発言があった。また工楽氏は、弥生時代の水田が溜田ある程度完成された姿で日本へ入ってきているが、畿内と九州における農具の差や、岡山県津島遺跡では前期に乾田経営が行なわれていることを述べ、土壌については今後の課題とするとした。

3については、¹⁴C年代測定値による議論となったが、およそ紀元0年をややさかのぼるところに落ち着いた。

4では、垂柳遺跡で弥生時代以降久しく水田が営まれなかったのは、土壌的な要因はあるが、星川氏により栽培されたのが極早生種であったことによるとする意見が出された。

5については、函館市立博物館の千代氏が、道南の遺物には弥生的なもの非弥生的なものがあり、水田跡の検出される可能性はあるとする発言を行なった。

6. 村越氏より、今回のシンポジウムを今後に生かしていただきたいとの挨拶で意見交換を終った。

午後は田舎館村の資料を見てシンポジウムは幕を閉じた。

5. おわりに

2日間にわたったシンポジウムは、垂柳遺跡を中心として行なわれたが、それは昭和35年に伊東氏が東北北半でも弥生時代に稲作が行なわれていたことを「東北北部の弥生式土器」と題して発表したことが実証されたわけであり、伊東氏を中心として長い間研究を続けてきた東北各地の研究者の努力が実ったことを示すものであった。

(斎野裕彦)

山口遺跡土壌のプラントオパール分析

大分短期大学 講師 佐々木 章

1. はじめに

仙台市富沢水田遺跡は、我国の北方に位置する広範囲な水田跡として注目されている。このたび富沢1丁目10番8号の発掘が行われ、遺跡土壌のプラントオパール分析の機会を得たので結果を報告する。(調査成果は市文化財報告書第75集「仙台平野の遺跡群Ⅳ」所収)

2. プラントオパール分析法

分析に用いた機動細胞プラントオパールは、イネをはじめ、ススキ・ヨシ・タケなどイネ科植物の葉身中に存在する珪化機動細胞に由来する土粒子である。従って埋没水田土層中には、そこで生産されたイネに由来するイネ機動細胞プラントオパールが多数含まれている。

土壌中の機動細胞プラントオパール密度と植物体中の珪化機動細胞量から、過去の植生やイネの生産量を推定する方法をプラントオパール定量分析法と呼んでいる。分析の手順を図1に示す。

あらかじめ一定量のガラスビーズを土壌試料に混入してから、粘土除去などの調整を行ない、プレパラートを作成する。次に顕微鏡下で、ガラスビーズに対する目的のプラントオパールの割合を求めて、土壌中のプラントオパール密度を計算する。さらに植物体中の珪化機動細胞量(表1)を用いて、植物体重に換算することができる。

3. 結果・考察

遺跡土壌中の機動細胞プラントオパール密度を図2に示す。イネについては植物体重ともみ重に換算して図3に示す。穂刈が行われており、土壌の移動が無かったとすれば、珪化機動細胞の全量が土壌中に残されていることになるので、分析結果は生産されたイネ地上部乾重と、もみ重に相当する。分析結果は面積10a、厚さ1cmの土層中に含まれるイネ機動細胞に相当するイネ量で示しており、年間収量では無いので注意されたい。

イネ機動細胞プラントオパールは1層から4層にかけて多量に検出される。5層以下、8層上部に至るまで、少量ながら検出される。

4層と7層に小さなピークが認められるが4層中の全イネ機動細胞プラントオパール量を生産されたもみ量に換算すると11.3t/10aに相当する。7・8層中の全量は、もみ量に換算して1.1t/10aに相当する。

穂刈でなく、株刈であったとすると、葉身も圃場外に持ち出してしまうため実際の生産量は、圃場内に残された葉身に由来する値から求めた量の20倍も多い。4層で230t/10a、7・8層で22t/10aのもみが生産されたことになる。

この地点の全層に含まれるイネ機動細胞プラントオパール量は、128t/10aのもみ量に相当

株列で、イナワラが圃場にもどされていなければ2560t/10aのもみに相当する。

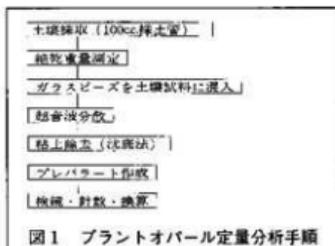
年間収量は不明だが、今、仮に平安時代から1000年間水田が営まれ、平均収量が、もみにして200kg/10a・年とすると200t/10aのもみが生産されたことになる。これは穂刈として計算した値の2.5倍、株刈として計算した値の1/3にあたる。比較的におそくまで穂刈に近い状態であったのかも知れない。

ヨシ属機動細胞プラントオパールは、8層を中心に7層から9層にかけて多く検出された。8層は、おそらく湿地で、水田が営まれるようになってから乾田化したものであろう。

キビ族は5層より上部と、8・9層で多く検出される。キビ族機動細胞の細分は、つまびらかになっていないので、同定はできないが、キビヤアワ、ヒエなどの雑穀類が含まれる。湿地にヒエ田が営まれた可能性についても考慮する必要がある。

4. 結 論

1. 4層までは水田の可能性が高い。5層以下、8層までイネ機動細胞プラントオパールが検出される。
2. 4層と7層に小ピークが認められるが、穂刈とすると4層で11.3t/10a、7・8層で1.1t/10aに相当する。株刈とすれば230t/10a、22t/10aに相当する。
3. この地点では今までに、穂刈のもみ128t/10aに相当するイネ機動細胞プラントオパールが含まれている。株刈では2560t/10aに相当する。
4. 平安時代から今まで平均200kg/10a年のもみ収量があったとすると、200t/10aのもみが生産されたことになる。これは穂刈として計算した値と、株刈として計算した値の中間にあたるが穂刈として計算した値により近い。
5. ヨシ属機動細胞プラントオパールの推移から、8層は湿地で、6層以後乾田化したものであろう。
6. キビ族機動細胞プラントオパールの詳細は明らかでないが、8・9層の湿地でヒエ田が営まれた可能性を考慮する必要がある。



		×10 ⁴ 個/g
イネ	<i>Oryza sativa</i>	3.43
ヨシ	<i>Phragmites Communis</i>	1.44
ヒエ	<i>Echinochloa Utilis</i>	0.23
ゴキタケ	Rambusaceae	20.83
ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	2.79

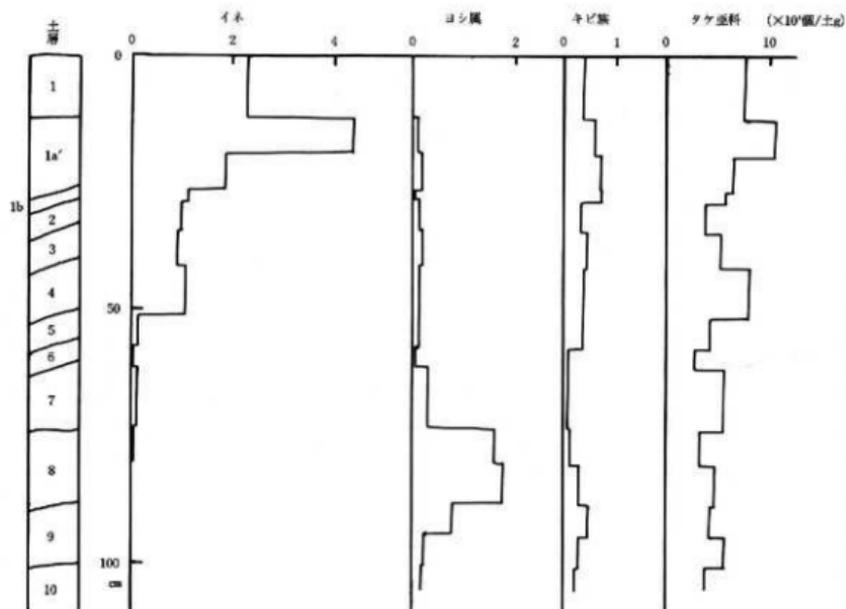


図2 土壌中のプラントオパール密度

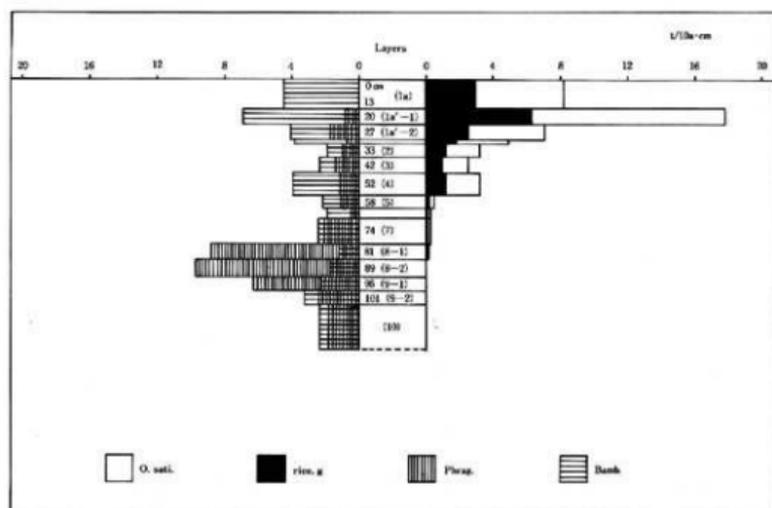


図3 土壌中のプラントオパール密度から推定したイネ科植物生産量

職 員 録

社会教育課 課長 阿部 達 主 幹 早坂春 文化財管理係 係長 佐藤政美 主 事 岩沢克輔 ◇ 山門 宏	文化財調査係 係長 佐藤 謙 主 事 田中 則和 ◇ 結城 慎一 教 諭 菅原 和夫 主 事 木村 浩二 ◇ 篠原 信彦 教 諭 小野寺和幸 ◇ 佐藤美智雄 主 事 佐藤 洋 ◇ 金森 安孝 ◇ 佐藤 甲二	主 事 古岡恭平 ◇ 工藤哲司 ◇ 波部弘美 教 諭 渡辺 誠 主 事 主浜光朗 ◇ 斎野裕彦 ◇ 長島栄一 ◇ 及川 格 教 諭 千葉 仁 ◇ 松本清一 派遣職員 高橋勝也
--	--	---

仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物霊屋下セコイヤ化石林調査報告書（昭和39年4月）
- 第2集 仙台城（昭和42年3月）
- 第3集 仙台市燕沢善忠寺横穴古墳群調査報告書（昭和43年3月）
- 第4集 史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年3月）
- 第5集 仙台市南小泉法輪塚古墳調査報告書（昭和47年8月）
- 第6集 仙台市荒巻五本松窯跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
- 第7集 仙台市富沢壱町古墳発掘調査報告書（昭和49年3月）
- 第8集 仙台市向山安岩山横穴群発掘調査報告書（昭和49年5月）
- 第9集 仙台市根岸町宗禪寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年3月）
- 第10集 仙台市中山町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年3月）
- 第11集 史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年3月）
- 第12集 史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年3月）
- 第13集 南小泉遺跡一帯明確認識調査報告書一（昭和53年3月）
- 第14集 粟道跡発掘調査報告書（昭和54年3月）
- 第15集 史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年3月）
- 第16集 六反田遺跡発掘調査（第2・3次）のあらまし
- 第17集 北尾敷遺跡（昭和54年3月）
- 第18集 柗江遺跡発掘調査報告書（昭和55年3月）
- 第19集 仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年3月）
- 第20集 史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年3月）
- 第21集 仙台市洞発掘関係遺跡調査報告書1（昭和55年3月）
- 第22集 経ヶ峯（昭和55年3月）
- 第23集 年報1（昭和55年3月）
- 第24集 今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年8月）
- 第25集 三神家遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）
- 第26集 史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年3月）
- 第27集 史跡陸奥国分寺跡昭和55年度発掘調査概報（昭和56年3月）

- 第28集 年報2 (昭和56年3月)
- 第29集 郡山遺跡Ⅰ—昭和55年度発掘調査概報—(昭和56年3月)
- 第30集 山田上ノ台遺跡発掘調査概報 (昭和56年3月)
- 第31集 仙台市團丸関係遺跡調査報告Ⅱ (昭和56年3月)
- 第32集 鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書 (昭和56年3月)
- 第33集 山口遺跡発掘調査報告書 (昭和56年3月)
- 第34集 六反山遺跡発掘調査報告書 (昭和56年12月)
- 第35集 南小泉遺跡—都市計画街路建設工事関係第1次調査報告 (昭和57年3月)
- 第36集 北前遺跡発掘調査報告書 (昭和57年3月)
- 第37集 仙台平野の遺跡群Ⅰ—昭和56年度発掘調査報告書—(昭和57年3月)
- 第38集 郡山遺跡Ⅱ—昭和56年度発掘調査概報—(昭和57年3月)
- 第39集 燕沢遺跡発掘調査報告書 (昭和57年3月)
- 第40集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ (昭和57年3月)
- 第41集 年報3 (昭和57年3月)
- 第42集 郡山遺跡—宅地造成に伴う緊急発掘調査—(昭和57年3月)
- 第43集 栗蓬跡 (昭和57年8月)
- 第44集 鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書 (昭和57年12月)
- 第45集 茂庭—茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告書—(昭和58年3月)
- 第46集 郡山遺跡Ⅲ—昭和57年度発掘調査概報—(昭和58年3月)
- 第47集 仙台平野の遺跡群Ⅱ—昭和57年度発掘調査報告書—(昭和58年3月)
- 第48集 史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報 (昭和58年3月)
- 第49集 仙台市文化財分布調査報告Ⅰ (昭和58年3月)
- 第50集 岩切期中遺跡発掘調査報告書 (昭和58年3月)
- 第51集 仙台市文化財分布地図 (昭和58年3月)
- 第52集 南小泉遺跡—都市計画街路建設工事関係第2次調査報告 (昭和58年3月)
- 第53集 中田畑中遺跡発掘調査報告書 (昭和58年3月)
- 第54集 神明社宮跡発掘調査報告書 (昭和58年3月)
- 第55集 南小泉遺跡—青葉女子学園移転工事地内調査報告 (昭和58年3月)
- 第56集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ (昭和58年3月)
- 第57集 年報4 (昭和58年3月)
- 第58集 今泉城跡 (昭和58年3月)
- 第59集 下ノ内浦遺跡 (昭和58年3月)
- 第60集 南小泉遺跡—倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書—(昭和58年3月)
- 第61集 山口遺跡Ⅱ—仙台市体育館建設予定地—(昭和59年2月)
- 第62集 燕沢遺跡 (昭和59年3月)
- 第63集 史跡陸奥国分寺跡昭和58年度発掘調査概報 (昭和59年3月)
- 第64集 郡山遺跡Ⅳ—昭和58年度発掘調査概報—(昭和59年3月)
- 第65集 仙台平野の遺跡群Ⅲ—昭和58年度発掘調査報告書—(昭和59年3月)
- 第66集 年報5 (昭和59年3月)
- 第67集 富沢水田遺跡—第1冊—泉崎南地区 (昭和59年3月)
- 第68集 南小泉遺跡—都市計画街路建設工事関係第3次調査報告 (昭和59年3月)
- 第69集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ (昭和59年3月)
- 第70集 戸ノ内遺跡発掘調査報告書 (昭和59年3月)
- 第71集 後河原遺跡 (昭和59年3月)
- 第72集 六反山遺跡Ⅱ (昭和59年3月)
- 第73集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅱ (昭和59年3月)
- 第74集 郡山遺跡Ⅴ—昭和59年度発掘調査概報—(昭和60年3月)
- 第75集 仙台平野の遺跡群Ⅳ (昭和60年3月)
- 第76集 仙台城Ⅲノ丸跡発掘調査報告書 (昭和60年3月)
- 第77集 山田上ノ台遺跡—昭和59年度発掘調査報告書—(昭和60年3月)
- 第78集 中田畑中遺跡—第2次発掘調査報告書—(昭和60年3月)
- 第79集 欠ノ上Ⅰ遺跡発掘調査報告書 (昭和60年3月)
- 第80集 南小泉遺跡—第12次発掘調査報告書—(昭和60年3月)
- 第81集 南小泉遺跡—第13次発掘調査報告書—(昭和60年3月)
- 第82集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ (昭和60年3月)
- 第83集 年報6 (昭和60年3月)
- 第84集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅲ (昭和60年3月)

仙台市文化財調査報告書第83集

昭和59年度

年 報 6

昭和60年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市国分町3-7-1

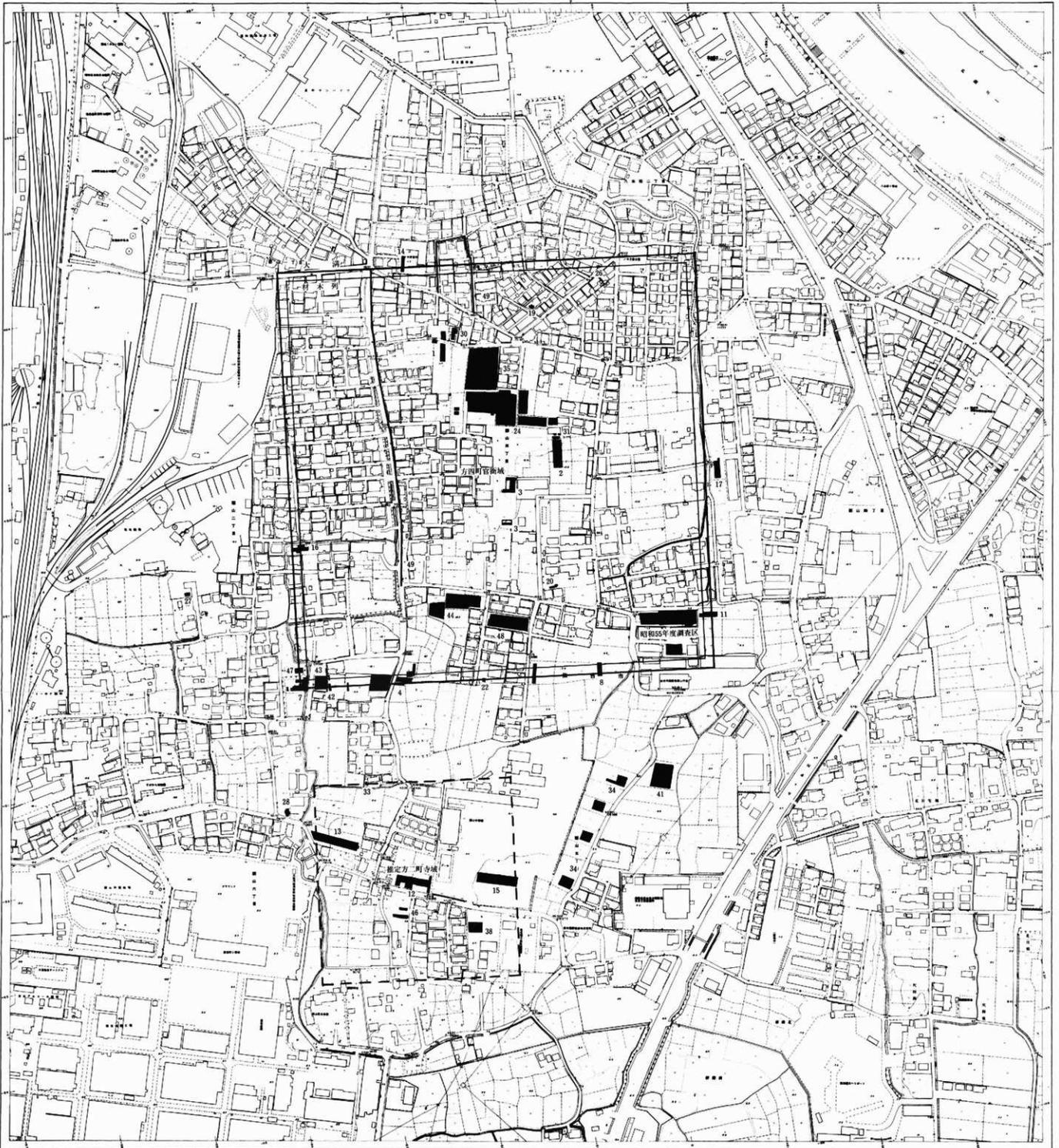
仙台市教育委員会社会教育課

印刷 針生印刷株式会社

仙台市六丁の目町1-38

TEL 288-5011

郡山遺跡現況平面図



国際航業株式会社調製

測量 昭和36年3月 プラニメータ02、ステレオプロッターA8
 調査 昭和36年3月 No.(X=0.5,Y=0)を基準点とし測点を基準としてある。
 縮尺 1/2000

1:2,000

